

心理學
西周譯
一
二

特35

庫書省部					212
三	二	五	五		原
冊	〇	架	兩	屬	七
	號			類	七
					號

第一千三百廿五號

心理學第二卷

亞墨利加聯邦神教學士約瑟奚般著

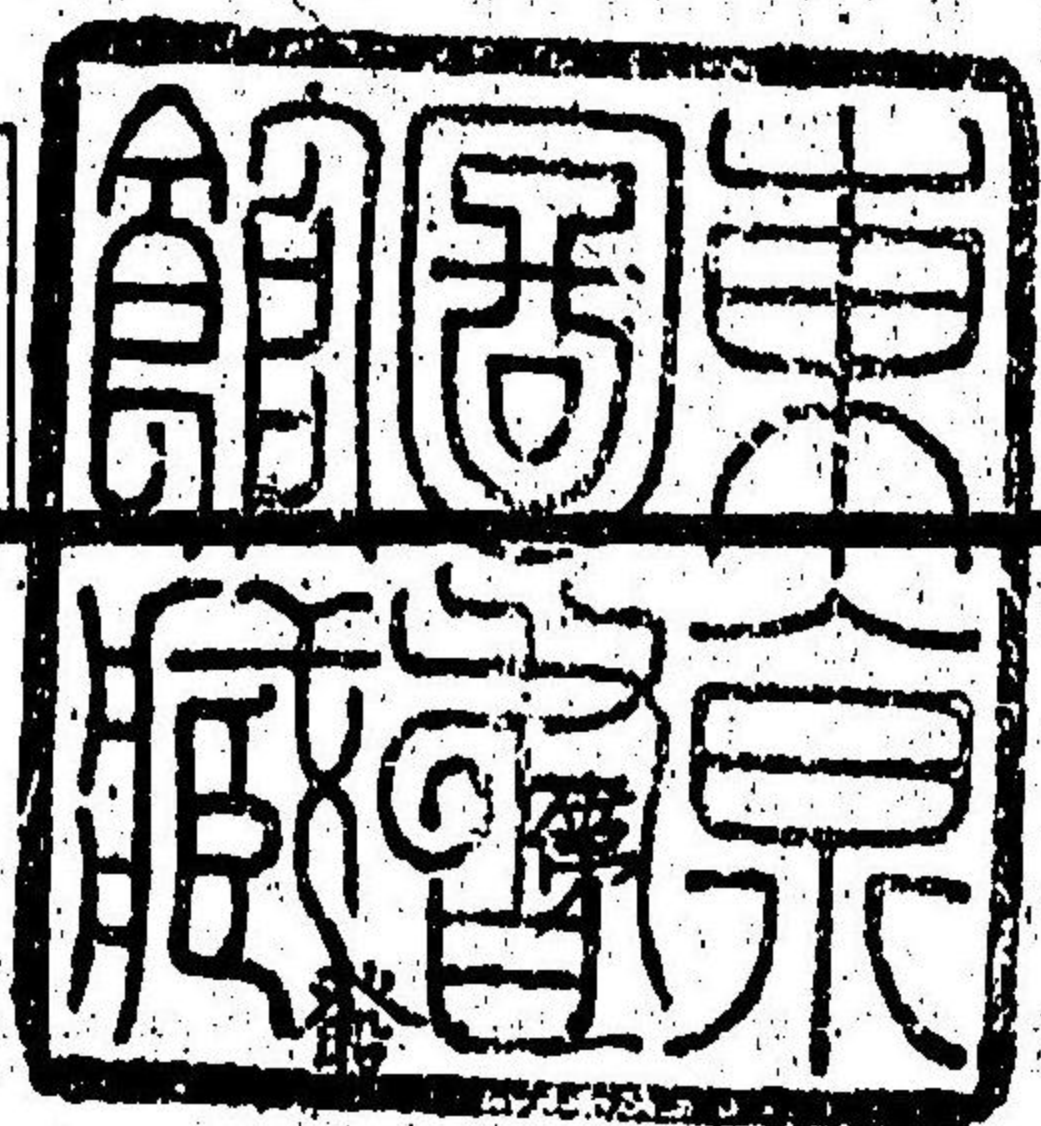
日本

西 周 譯

區 智ノ能力ヲ論ス

發端題目

第一編 意識ヲ論ス



總論

此前三彙類ノ立テタル智ノ諸種各自ノ能力ヲ
講究スル前ニ先論スヘキ發端ノ題目アリ、是凡
チ心意ノ發動ニハ、多少トモ、其中ニ包含レタル
心裏ノ現象情狀ナリ、是ヲ以テ、之ヲ別種ノ能力

トレテ、彙類中ニ立ルコトハ、難レト雖モ、猶別項ニ論スヘキ者ニテ、即意識并ニ注意ト稱スル心意ノ情狀ナリ、

維多利亞論

維多利亞多ノ定義ニハ、感覺并ニ心意ノ運用ノ知識、即我カ自己心中ニ、發作スルコトヲ、知ルナリト云ヘリ、威蘭ハ、心其自己ノ運用ヲ、認識スル情狀ナリト云ヒ、項參ハ、智ノ一官能ニレテ我カ心ノ内部ニ生スルコトヲ、凡テ我ニ知ラレムル者ナリト云ヒ、項參ノ書ヲ、譯セル學士顯理ハ、心ノ現象、即心ニ表現レタルコトヲ、醒覺スルナリト

意識ノ一
個ノ能力
ト見サル
ノ道理ヲ
論ス

云ヒ、博士答實ハ、心其自己ノ運用ニ就テ、知ラサルヲ得サル者ナリト云ヘリ、此定義總テ其實ハ、一致セリトス、心ハ、其自己ノ運用、其感覺、知覺、情緒、撰擇等ヲ、覺ユルニテ、此ノ如ク、自己ノ現象ヲ、認識スル狀、即發作ヲ、意識ト云フ一般ノ語ニテ、徴スルナリ、

然ルニ、是亦一個ノ能力タリヤ否ヤ、蓋心ハ、其自己ノ運用ニ就キテ、恒ニ認識スル者ナリト云ヘリ、故ニ心、知覺スル時ハ、自、知覺スルヲ識リ、心、辨論スル時ハ、自、辨論スルヲ識リ、心感動アル時ハ、

自感動スルヲ識ル、故ニ、凡テ自、心ノ各自ノ發作
 ヲ、識ラサル時ハ、其發作ヲ成スコト、能ハサルナ
 リ、今感覺スルコトアル時、自、其感覺ヲ識ルハ、唯
 同一事ニシテ、二事ニ非ス、唯名ニテ異ナルノミ
 ト云ヘリ、又物ヲ知覺スルコトヲ分別スヘキコ
 トニ非ス、之ヲ分解シテ、知覺スルト云フ事實ト、
 其知覺ヲ、自、識ルトノニ、トナス可ラスシテ、知覺
 ト云フハ、知ル事ナルヲ、知ルコトノナキ時ハ、知
 覺ハナケレハナリ、是維廉哈美爾頓氏博士慕因、
 并ニ高名ノ諸大家ノ見解ニテ、學士丕羅昂勉テ

相反セル
 見解ノ道
 理ヲ論ス

此說ヲ墨守シ、來徳ノ意識ヲ一個ノ能力トシテ、
 見タル學派ヲ辨駁セリ、
 又一方ニハ、此心ノ發動ノ形狀ヲ、心ノ一能力ト
 シテ看、他ノ諸カト共ニ、一種ノ者トスル說ヲ取
 リ、之ヲ固守スル有名ノ諸家アリ、學士威蘭、統領
 馮漢ノ輩是ナリ、此諸家ハ、意識ノ職守ハ、我自己
 心意ノ情狀ニ就キテ、知識ヲ呈シ、其官能全ク他
 ノ心意ノ能力ト、別ナルヲ以テ、此務ヲ成スカト、
 其能トニ因リテ自、心上ノ一能力ト見做スニ足
 レリト云フヲ主張シ、且威蘭ハ、意識ハ、必一定レ

此説ノ證
スル諸例

テ、凡テノ心意ノ發作ニ伴フ者ニ非スレテ、一時
ハ、意識ナキ發作アリト、主張セリ、
此説ヲ立ツル爲ニ、意識ナキ知覺ノ例トシテ、一
定ノ諸條ヲ舉ケタリ、譬ハ、今忙シク事ニ取レタ
ル時、數尺ノ距離内ニテ、自鳴鐘ノ鳴ルヲモ、之ヲ
聞カサルカ如ク、又其打報ヲ知ラスト雖モ、後人
ニ問ハル、時之ヲ聞キタルコトハ覺ユルカ如
シ、又他人ニ對シ、一書ヲ朗誦スル如キ、間ニ一ノ
意思ヲ生シ、之ニ意ヲ注スレトモ、續キテ誦讀ス
ルハ、器械ノ運用ノ如クニシテ止ムコトナク、而

シテ、心ハ專、他事ニ馳セテ、遂ニ一驚ヲ喫シ、目下
ニ讀シ所ナレトモ、初頭ハ如何ニアリレヤ、凡テ
覺ユルコトナキコトアリ、然トモ、一語モ差謬ナ
ク、讀ミ了スルナリ、是意識ニ依ラスレテ、一語一
字ヲ知覺スルコトヲ見ルヘシ、又其一例ハ、英國
ノ貴族房ノ疾書手ニテ、重事ニ就キテ、證憑ノ口
供ヲ取ル時、數字間陸續意ヲ勞レテ、疲ル、時ハ、
一時數瞬間、全ク意識ナキ姿ニ、落ルコトアリ、然
レトモ、續テ寫レ了リ、十分精密ニ、口供ノ證ヲ取
レリ、最後數行ニ至リ、之ヲ讀マムトスル時ハ、既

此據証ス
查實レテ
論ス

ニ何等ノ事ヲ記シタルヲ覺エスト雖モ、猶精密ニレテ、讀ミ得ヘク、書記セリ、此ニ例并ニ、其他是ト同レキ諸例ヨリ、心意ノ發動ハ、一時意識ナキコトアルヲ、引證セリ、

前ニ舉ケタル諸例ニテハ、皆十分ニ、疑義ヲ定ムルニ、足サルコト、見ユ、蓋首トレテ疑フヘキハ、此ノ如キ時、果シテ心ノ發動アリヤ、此ノ如キコト、本來心ノ發作ニレテ、唯器械力、即、自動力タルノミナラサルカ、是未タ知ル可ラサルナリ、ソレ心ノ運用ニ、初頭ハ、多少ノ注意ヲ要スル者、其事

十分習熟ニ至ル時ハ、一時殆ト意思ナクシテ、爲レ得ヘキコト多シ、是人ノ能知ル所ナリ、蓋、五官ノ用一次ニ、之ヲ發作ニ施ス時ハ、器械力ノ如ク、又自動力ノ如ク、發作スルコト、見ユ、猶車輪ノ、一度運動ヲ受クル時ハ、其之ヲ、動カシムル力ヲ、除クトモ、一時自己ノ動力ニ因テ、續テ廻轉スルカ如ク、略相似タリ、心意ノ發動モ、此ノ如キ時ハ、意識ヲ要セスト雖モ、少ク事アレハ、注意ヲ遣レサルナリ、故ニ、其意識ナキハ、自覺スヘキコトナケレハナリ、是又、吾儕遊歩ノ時、或ハ一友ト相話

レ、或ハ自己思念スル所アリテ、專心ニ之ヲ爲ス
 コトニテ解釋スヘシ、此時ハ、歩ヲ運フト、關節ヲ
 動ストニ於キテ、心ノ發動スルコトヲ覺、エサレ
 トモ、初頭、向フヘキ方向ヲ決定シタル時ハ、心ハ、
 他事ニ在リ、而シテ遊歩ノ運用ハ、器械力ノ衝動
 ノ如ク過了レ、現ニ、我カ注意ヲ要スル一事來リ
 テ、體ノ運動ヲ是ニ向ケテ、其事ニ繫ルマテハ、止
 マサルナリ、蓋、筋維ノ縮張ハ、一定レテ、整々交互、
 相繼クテ常トレ伴結聯合ニ一定ノ理法アリテ、
 其運動ヲ、統轄スルコト、見エ、猶洋琴ヲ鼓シ、笛

其他ノ疑
 義ヲ論ス

ヲ吹キ、活字ヲ植ラル等、凡テ同一種ノ敏捷ナル
 運動ニ於キテ見ルヘキ如ク、其整々相續キ慣習
 セル運動ノ次序苟モ紊ル、コト無キ時間ハ、靈
 智上ヨリ之カ本源ヲ起レテ、間ニ接フルコトナ
 レトモ其運用ハ、止マサルナリ、故ニ此ノ如キ時
 其發作中ニ、心ノ發動ヲ含メリト、謂フヘカラサ
 ルナリ
 是ヲ外ニシテ、前條ノ作爲中ニ、心ノ發動ヲ、含有
 スルノ說ヲ容ル、トモ、其瞬間ニ、此發動ニ就テ、
 意識ナレト云フハ、如何ナル據證アリヤト、問フ

コトヲ得ヘシ、故ニ今、其後意識ナレト云フト雖
 モ、其時果シテ意識絶エテ無キカハ、未タ確實ナ
 リトセズ、其作為ニ就キテ後ニ意識アリト曰フ
 ハ、是即記性ニレテ、既ニ本來ノ意識ニハ非ルヲ
 ヤ、今意識ハ正レク言ハ、唯現在ノ認識ニシテ
 過去ニハ、關セサルナリ故ニ作為ノ後ニ、意識ナ
 シト云フハ、唯之ヲ記セサル耳、是最初ニ、全ク意
 識ナシト定ムルヨリ、反テ他ノ説ヲ以テ、解釋ス
 ルノ勝レルニ、如キサルナリ、前ニ舉ケレ條ニテ、疾
 書手ノ事ノ如ク其心ノ發動實ニアル時ハ、其瞬

真義ヲ釋ス

間ニ必自之ヲ識ルコト、疑ナレ、然レトモ、其體氣
 ノ疲倦ニ因リテ、其意識極メテ淺ク且、心ニ印象
 スルコト、極メテ、薄クレテ、後ノ瞬間ニハ、之ヲ記
 スルコトヲ得サルナリ、凡テ吾人ハ、遇フ所ノ物
 毎ニ之ヲ記スルニハ非ス、唯注意スル物、又ハ、我
 ヲ感セシムル物ヲ、記スルノミ、
 前ニ舉ケタル、他ノ一例ニ於キテハ、此説、猶一層
 明白ニ、真義ヲ示スヘシ、其意識ナレト云フハ、唯
 其時注意ナキヲ以テ、故ニ其後亦之ヲ記スルコ
 トナキナリ、前ニ舉ケタル例ニテ、朗々誦讀スル

人心中ニテハ、其書ノ著者ノ意ヲ主トセス、他ノ
 一事ニ、意ヲ馳スル時ハ、言ハ、讀ム所ノコトニ、
 注意セサルナリ、故ニ、其後ニ至テ、讀レコトノ如
 何ナリヤ、之ヲ記セサルナリ、是自鳴鐘ノ鳴ニ於
 キテモ、亦然ルコトニテ、其音ハ、耳ニ入り、聽神經
 ハ、之カ爲ニ用ニ供シ、何ニテモ腦中ニ、尋常ノ變
 化ヲ、生レタリト雖モ、聽ク運用ハ、爰ニ止マルナ
 リ、故ニ、此時、此音ニテ、心意ノ發動ヲ、提醒セサル
 ニハ非ス、然レトモ、其心、他事ニ馳スル故ニ、其發
 動アリトモ、極メテ微ナリ、譬ヘハ、門戶ニ待テル

據證ノ概略

使人ノ傳令ニ、意ヲ注セサルカ如シ、是ヲ以テ其
 後ニ至リ、其使令ヲ、記セサルナリ、此ノ如キ類ハ、
 縱記シ得タリトモ、極メテ邈然タル印象ノミ、
 且凡テ之ヲ論スレハ、前ニ舉ケタル諸條ニテハ、
 心意ノ發動、之ヲ發作スルノ時ニ方リ、全ク意識
 ト伴ハサルコトハ見エサルナリ、
 是ヲ以テ、余ハ意識ニ、心ノ能力中ノ一坐ヲ假シ
 テ、諸能力ヨリ、獨立シテ同列タラシムルコトヲ、
 難スルナリ、其說左ノ如シ
 第一、余カ見ル所ニテハ、意識ハ、凡テノ心意發動

ノ作意ニ含有スル者ナリ、既ニ云ヘルカ如ク、吾人、譬ハハ知覺若クハ感覺ノ作爲アル時、此知覺感覺ニ就キテ、意識ナシト定ムルコト能ハス、今心爲ス所ノ者ハ、心自之ヲ爲スコトヲ知ル、此知ルコトハ其中ニ、含マレタルコトニシテ、爲スコト、共ニスル者ナリ、今書ヲ看、若クハ、音ヲ聞クコトヲ、知ラヌト云フハ、其實ハ、見モヤス、聞モヤサルナリ、又感覺スルコトヲ知ラヌト云フハ、感覺ナキコトナリ、故ニ、凡テ心ノ作爲ノ中ニ含有スル者ハ、其心之ヲ以テ、心ノ殊別ナル作爲ナリ

トスルヲ得サルナリ然ラザレハ、其全體ヲ取リテ、其部分ト、類ノ同クスルニ庶幾クスヤ、
第二、意識ハ、發動中ニ、含有スル者ニシテ、心ノ作意ニ就キテ論ストモ、時限ニ就キテ論ストモ、其伴フ所ノ心意ノ事爲ト別ツ可ラス、其作爲ト作爲ノ意識トハ、時ニ於キテ、前後ノ別ナク、又心ノ別種ナル情狀ナリト、區別ス可ラス、今感覺若クハ知覺ヲ以テ、一ツノ事實トナストモ、自、其事實ヲ識ルヲ以テ、又一ツノ事實トナスコトヲ、得サルナリ、故ニ、致知學ニテ、之ヲ論セハ、之ヲ以テ

意識ト
記述ト

思慮注意ノ一眼目トシテ、論スルコトヲ得ヘシト雖モ、性理學ニテ、論スル時ハ、心ノ別異ナル作爲ナリトハ、謂フ可ラサルナリ、
第三、意識ハ、意ノ指揮ニ從ハサル者ナリ、故ニ亦以テ心ノ能力トナス可ラサルナリ、是事ヲ爲ルノ勢力ニハ非スレテ、凡テ事ヲ爲スニハ、離ル可ラサル伴友ナリ、故ニ、或著述家ハ、有意ノ意識ト名ツクル者ハ、唯我カ自己心上ノ作爲ニ強ク向ケタル注意タルノミ
又他ノ著述家、更ニ意識ト、自己意識トヲ區別ス

別ノ論

病ニ因リ
又阻害シ
タル意識
ノ論

ル者アリ、然レトモ、本來ハ、意識ト名ツクル者ハ、凡テ自己ノ意ヲ含ム者ニテ主觀ニ就キテ言フ者ナリ、故ニ、今、我、感覺スト識ルハ、自己ニ感覺アリト、識ルト同一般ナリ、
腦ノ機關、病ニ因リテ、一定ノ擾亂ヲ受ケタル時ハ、此ノ如クナラサル前ニ、認メタル知識一旦消失シテ、後平常ニ復スルニ及ヒテ、更ニ知識モ、凡テ本ニ復スルコト、見ユ、然レトモ、其病間ノ事ハ、素ヨリ覺エサルナリ、此ノ如キ諸例、諸記ニ多シ、此ノ如ク更ニ互ニ心ノ發動ノ互ニ關セサル

形狀ヲ顯ハレテ、一人ニテ二體ノ如キ者アリ、其一例ハ、學士威蘭ノ接ク所ノ如シ、是ヲ病ニ因リテ、沮息スル意識ノ例トスルコト、尋常ノ說話ナリ、然レドモ、嚴ニ其名ヲ正ヒハ、意識ニハアラスレテ、此ノ如キ時ニ於キテ、記性ノ序ヲ失シタル者ナリ、是現在ノ事ヲ知ルニハ非スシテ、其攪亂缺乏ヲ受ケタル過去ノ事ヲ知ルナリ、故ニ、其病ニ犯サレタル間ハ其人、唯病間ニ接スル事ニ就キテ意識アリ、而レテ病歇ム時ハ、患者猶幻想夢寐ヨリ醒ムルカ如ク、一モ病間アリシ事ヲ記ス

意識ノ目的者
ヲ論ス

ルコトナシ、是ヲ以テ、缺ク所ノ者ハ、記性ニ在リテ、意識ニ非サルナリ、何トナレハ、吾人曾テ過去ノ事ニ就キテ、意識アルコト無ケレハナリ、第一、意識ハ、唯現實上ニアル者ニシテ、現ニ有ル所ノコトヲ自識レトモ、有ルヘキコトヲ、自識ル者ニ非ス、故ニ詩人ノ虛構假設ヲナスハ、其虛構假設ヲナスト云フコトニ、意識アリ、空中ニ城郭ヲ建ル時ハ、是幻想ナリト云フコトニ、意識アリ、故ニ、其虛構假設ト、幻想トハ、之ヲ心意ノ作爲ト看ル時ハ、現實ニシテ、其虛構幻想モ、意識ノ目的

トナル所ニ於キテノミ、心意ノ作爲タルナリ、
第二現實ナル事物ト雖モ、亦悉意識ノ目的タル
ニ非ス、唯現存シテ、直^チニ吾^ガニ關係スル物ニ限ル
ヘシ、故ニ潘沛ノ震滅ノ如キ、南極下ニ、大陸有ル
カ如キ、皆現實ノ事ナラサル莫^クシ、然レトモ、吾カ
意識ノ目的ニハ非サルナリ、
第三、吾人首トレテ、直^チニ自^ラ識ル者、吾カ自己心裏
ノ情狀、并ニ發動シテ、何ニテモ、吾カ心裏ニ、觀察
スル域内ニ起ル所、意思感動、行爲、體中ノ感覺、道
義ノ意見、志尚ノ所在等ナリ、又其次ハ、媒介ヲ歷、

直^チニアラスシテ、直覺ニ供スル者ハ、五官ノ媒ニ
由リテ、吾ト、直^チナル關係ニ於テ、來ル者ナリ、譬ヘ
ハ、今手ヲ伸ヘテ、此机ヲ打ソカ如シ、乃^チ手ノ運動
ト、手ヲ伸ヘント、欲スル努力ト又、自^ラ識ルノミニ
非ス、又彼ニ就キテ、抵抗ノ感覺アルヲ識リ、又徒
ニ吾カ抵抗アルヲ、自^ラ識ルノミナラス、又且物ア
ルヲ自^ラ識リ、机ト云フ者有リテ抵抗スルヲ識ル
ナリ、故ニ今識ル所ノ物ハ、吾カ感覺ト抵抗ト
ヲ、知ルカ如ク、實ニ之ヲ識ルナリ、此外界ノ物、直^チ
ニ吾カ體ノ機關ニ觸レ、其媒ニテ、知覺スルコト

ニマテ意識ノ疆域ヲ、擴メタルハ、維哈美爾頓氏
ナルヘモ、然レトモ平常ハ此意識ト云フ語、一層
狭キ意味ニ、用井ルコトニテ、心ノ外ニ在ル物ニ
用井スレテ、心裏ニ起ルコトヲ、識ルコトヲ徵セ
リ

第二篇 注意ヲ論ス

注意ヲ、心ノ種別ナル能力中人、一トレテ論スル
ハ、平常ナキコトナリ、然レトモ、是亦心ノ有スル
勢力タルハ、疑ナレトス、然レトモ、此勢力ハ、理會
ノ勢力ノ如ク、又一層一般ナル所ニテハ、思慮并

此勢力ノ
情狀ノ總
論

ニ領解ノ如ク、凡テ心上種別ノ諸能力ヲ發スル
時ハ、其中ニ、包含根據スル者ナリ、又此勢力ハ、意
識ノ如ク、知ルコトニ、限リタル一部ニ屬スルニ
非ス、吾カ自己心裏ノ情狀ヲ、知ル上ニ、在ル
ニ非スレテ、元來獨立ノ知ルコトノ能力タルヨ
リモ、凡テ自餘ノ心中諸勢力ニ、助資タル者ナリ、
故ニ此勢力ノミニテハ、是ヨリ一動ヲモ、發スル
コトナク、又一事ヲモ、示スコトナク、凡テ吾ヲレ
テ、新ニ、知ラシムルコトナレ、故ニ又、此勢力、自己
ノ獨立セル疆域ヲ、有スルコトナレ、然レトモ、此

定義

勢力無クシテハ、自餘ノ能力、凡テ利用ニ供スル
 コト少ナカルヘシ
 是能ク世ニ理會シ得ル語ナリト雖モ、今必之カ
 定義ヲ爲サムトナラハ、是心意故ニ意ヲ用非、自
 餘ノ物ヲ棄置シテ、專一物ニ意思ヲ向クル時、有
 スル所ノ勢力ナリト、註釋スヘシ學士威蘭ハ之
 ヲ有意ノ意識ノ一種トシ、意ノ作爲ニ因リテ吾
 カ意識ヲ提起注向シタル、心ノ情狀ナリト云ヘ
 リ、又同レ學士ノ説ニ、無意ノ注意アリト云ヒ、是
 ハ、吾カ自己ノ故意ト、努力トヲ待タス、目的タル

解釋ノ諸例

者ノ感動スル性質ヲ有スルヨリ吾カ意思ヲ控
 住シタル心ノ情狀ナリト云ヘリ、恐クハ是實ニ
 注意ト云フヘシヤ否ヤ、疑フヘキナリ、蓋注意ヲ
 心ノ一勢力トスルハ、本有意ノ作爲ニシテ、單純
 ナル、意思若クハ意識ノ發動ヨリ、異ナリトスレ
 ハナリ、今意識ハ、必意ニ關スル者ニ非サレハ、注
 意トハ別ナリトス
 此ノ如ク日常行フ所ノ一能力ニ就キテハ例ヲ
 舉テ解釋スルニ、及ハサルナリ、誰ニテモ、其差ヲ
 能曉リ得ルコトニテ、譬ヘハ、書ヲ讀ムニ、注意ナ

キカ如シ、目ハ、徒ニ紙數ヲ閱過スレトモ、書中有ル所ノ說ニ就キテ、一モ心ニ興起スル所ナキカ如シ、然ルニ同シ書ト雖モ、著實精密ニ注意スル時ハ、一語一語之ヲ視、一ノ意見毎ニ、之ヲ思量シ、凡テノ心カテ、目前ノ事ニ、寄スルナリ、又吾儕繁盛ナル一街頭ヲ過レハ、人衆稠密ヲ見ル、然レトモ、之ヲ視ル爲ニ、駐ルコトナケレハ、後來、其形狀容貌ノ如何ナル、凡テ之ヲ語ルコト、能ハサルナリ、然レトモ、今稠人ノ中、一人、吾カ意ヲ屬スル時ハ、吾儕、其容貌風采ヲ視、其動靜ヲ察シ、其被服、姿

注意ハ時トレテ專一ナルヲ論ス

儀氣習等ノ異アルヲ表出レテ、後來多少精密ニ、之ヲ形容シ得ルナリ、是前ニハ、唯知覺スル耳ニシテ、注意スルコトナク、後ニハ知覺スルニ、注意ヲ加ヘタルナリ

注意ハ時トレテ、瞬間ハ、我カ心、專、其物ニ在ルコトアリ、吾儕喜ヒ聽ク音ヲ聞キ其反覆又意ヲ注シテ聽ク時ノ如ク、此時ハ一時他ノ能力ハ、停息シテ、所謂全意ヲ注スルナリ、此ノ如キ時ニ出ル形容ハ、此注意ト云フ語ノ字義ニテ、示レタル如ク、此能力ヲ徵スル爲ニ、自然ニ此語ヲ用井ルニ

至リシナリ、即チ英語ノアテンショント云フハ、拉
 丁ノアドテンション、譯シテニカクムクト云フ語
 ノ變化セルニテ、其主トスル目的ノ方ニ傾キ、其
 方ニ偏倚シテ、身ヲ挺スル様ナリ、

注意ニ於
 十天心ノ
 運用ノ分
 解ヲ論ス

今此勢力ヲ行フニ當リ、我カ心ノ運用ヲ仔細ニ
 分解スル時ハ、此勢力ハ、首トレテ、意思ヲ一物上
 ニ存留シ、心ノ他ノ發動ヲ、總テ停歇スルナリ、是
 ヲ以テ、其心主トスル一物體ニ、全カヲ盡スコト
 ヲ得ヘキナリ、此運用ハ機關ニ於キテ、速ニ迴轉
 スル車輪ヲ、止ムル壓機ノ用ニ比例スヘク、是ニ

因リテ、其方向ヲ好ニ從ヒ、更換スルノ間ヲ得ヘ
 キ、又其功驗ヲ論スレハ、船ノ運動ヲ定ムル所ノ
 舵ニ、比例スルヲ得ヘキ、是ニ因リテ、舵工ノ意ノ
 如ク、彼方此方ニ、向フコトヲ得ルナリ

注意ノ目的ハ、意思ノ目的ト同レク、自之ト相應
 スル諸種アリ、意識ノ如ク、心意自己ノ情狀ヲ、目
 的トスルコトアレトモ、又意識ト異ニレテ、客觀
 上ノ現實物體ノ總テノ連絡ヲ、悉ク目的トスル
 コトアリ、故ニ心意自己ノ情狀ニ、注意スル時ハ、
 反射即省察ト名ツケ、外界ノ事物ニ注意スル時

注意ノ習
情切要ナ
ルヲ論ス

ハ、視察ト名ツクルヲ通常トス
事物ニ注意スルコトヲ習ヒ、心ノ此能力ヲ陳ヘ
開クコト人切要ナルハ、殊ニ解釋ヲ要スルコト
較著ナリ、吾人自己心意ノ發動ヲ控御シ、目下須
要ナル方隅ヘ、自在ニ之ヲ向ケ、之カ爲ニ、凡テ自
餘ノ支離ナル雜念ヲ塞キ、而レテ、心カヲ一ニシ、
目前ナル思慮ノ目的ニ、歸注スルハ、極メテ貴重
スヘキカニレテ、努力スヘキ練磨ノ功トシ、且各
之ヲ有スル強弱差等アルニ因リテ、思慮ノ域内、
靈智ノ壇上ニ於キテ、人々ノ心ノ差等ハ、生スル

ナリ、其注意岐分レテ、心、諸種ノ目的ニ、擾亂セテ
ル、時ハ、一物モ、明亮確實ニ、理會レ得ルコトナ
ク、光ノ諸線、燃點ニ聚ルコトナク、心裏、眼、的然
タル定像ヲ見スレテ、只陰翳模糊タル輪廓ヲ覺
ユルヲミ、此、如キ狀ニテハ、心ノ作為、目的ニ益
ナク、其力ノ強サヲ失フナリ、
然レトモ注意ヲ命シテ、心カヲ一定ノ目的ニ、歸
注スルハ、容易ク得ヘキ執力ニ、非スレテ、又尋常
人々有スルコトニモ非サルナリ、之ヲ練磨シ得
ルノ難キハ、其切要ノ大ナルト相比ス、レ、之ヲ

一定ノ作
為少レモ
注意ナク
レテ成ル
ハキマラ
シ

得ルノ方ハ、誠切ノ努力ト、果敢ノ決心ト、勵精ノ
涵養ト、練熟トニ在リテ、且意ノ強固ニ依リ、諸心
力ノ制轄シ、之ヲ悉ク、其目的ニ服屬セシメ、又其
成功ヲ期シテ、果決ヲ以テ、之ヲ持シテ、我カ心ヲ、
練磨習熟スル上ニ、多少ノ工夫ヲ、要スルナリ此
能力ハ、各自ノ諸能力ノ如ク、適宜ノ開發ニ至ル
マテ、人皆培養ヲ要スヘシ、
慣習ニ因リテ、極メテ容易ニ成レ得ルコトヲ知
リテ、世ニ云フ如ク、大抵思慮ヲクシテ為ス所ノ
作為ハ、實ニ有意ニ屬スルカ、此中少シニテモ、注

意ノ發動ヲ、含メリヤ、否ヤト云フコトニ就キテ
ハ、哲學ノ諸家ニテ、稍講究ニ供スル疑案タリ、人
皆、手技、又機器ノ運用ニ於キテハ、多ク實地慣習
ヨリ、不用意ノ地ニ至ルヲ知レリ、是手技耳ニア
ラズ、且一層靈智上ニ、屬スル技藝ニナモ、然ナリ、
今樂師ノ樂器ヲ弄スル、其為ス所ニ於キテ、既ニ
意識アルコトナク、其注意ハ時トシテ、他ノ思慮
若クハ他人トノ談話ニ因リテ、全ク他ノ目的ニ
馳セ而シテ、其手指ハ自在ニ、樂譜ヲ逐ヒテ、能慣
習セル音調ヲ、奏スルカ如キ、此時其手指ノ譜ニ

從ヒテ轉ナルハ手指ノ運動毎ニ先意アリ、注意アリテ、殊別ノ作為ヲナスヤ否ヤ、又加減、一層迅速ニ弄シテ一般ニ注意ヲ其作為ニ向ク、其譜ヲ奏セムトスル時タモ、其前後相繼キ、殆ト理會ス可クサレ速ニテ、各自ノ調ヲナスニ於キテ、猶殊別ノ注意アリヤ否ヤ、學士斯陀拉學士來德及他ノ諸家并ニ又生理學ノ諸大家ハ、此問ニ否ヲ以テ應ヘ、其疑問タル作為ハ、唯自動力、器械力ニシテ、本來心ノ發動ヲ、其中ニ含メルニ非スト謂ヘ、其說以謂ヘラク、此時心意ハ、一定ノ譜ヲ奏ス

此說ニ反
スル見解
ヲ論ス

ル爲ニ一般ノ目的ヲ立ツルノミ、然ルニ一個一個ノ調ヲ生セシムルニ、須要ナル各自ノ運動ト、筋維ノ伸縮トハ、多分有意ニ非ス、慣習ノ功ニシテ、殊別ナル意即、注意アルニ非スト、又一說ニテハ、士低瓦的氏、墨守シテ、以謂ラク、如何ニ容易ニシテ、且疾速ナリトモ、凡テ此ノ如キ作為ハ、之ヲ生スル爲ニ、心意ノ發動ヲ、含ム者ニシテ、些ノ注意ト、些ノ殊別ノ意トハ、縱、吾儕、後來之ヲ記スルコト能ハストモ、無キコト能ハザルナリ、其運用ノ歩々毎ニ、觀念ノ伴生ニ依テ相連

續レ其作爲陸續現ハレ來リ之ヲ喚起スルニ勞
カヲ用ヰス我カ方ニ在リテ、凝滯ナク、顧慮ナク、
其平昔ノ實驗ニ、比例シテ、發スルナリ其注意ト、
意ノ發動トハ、刻々ナルヲ以テ、故ニ、後來之ヲ記
スルコトナキナリト、且謂フヘシ、之ヲ記セサル
ハ、之ヲ陳ハサルノ證ト爲ス可ラスシテ、其樂手
若、音調毎ニ、注意ヲナシ、其始ニハ、執意ヲ催スカ
テ、自、觀察記取セムト欲セハ、好ニ應シテ、其譜ヲ、
徐々ニ奏シ得ルヲヤ、故ニ、此兩様ノ事情ハ、運用
ノ速ナル上ニ在リテ、運用ノ情狀ニハ、由ラサル

ナリ、

此見解ヲ
駁ス

唯此ノ如キカアリトスル見解ハ、駁スヘキハ、此
說ニテ、主張スル所ハ、心意ノ行爲ヲ以テ極メテ、
疾速ナリトスルニ在リ、極メテ能辨ナル談說者
ハ、一分時間ニ、二百語乃至四百語之ヲ文字ニシ
テ、一千乃至二千字ヲ語ルト云ヘリ、而シテ字毎
ニ、筋維ノ伸縮ヲ要スルハ、悉別ナルヘクシテ、其
中多クハ、實ニ重複ノ伸縮ヲ要スル者アリ、然ラ
ハ、今一分時間ニ、注意ト執意トノ發作、數千度ニ
及フヘカラン、

此辨駁ニ
答フ

此說ニ答フヘキハ、此辨駁ノ要旨中ニ、其答ヲ含ムト、云フコトナリ、如何トナレハ、今體ノ諸筋維スラ、此ノ如キ愕クヘキ疾速ニ、因リテ動クト云フコト、眞ナリトセハ心ハ枉ケテモ此體ト、其運動ノ速カラ、均クスヘキコト、信スヘカラサルニ非サルコト必セリ、而シテ心ト體ト、共ニ極メテ疾速ニ、發動スルコトノ多キヲ證スル爲ニ士低瓦的氏ハ踏索技ヲ行フ者ヲ引ケリ、今踏索者ハ、緩索ノ上ニ立チテ其身ヲ平均ナラシメ、同時ニ、數多ノ木棍ト、彈丸トヲ、其下領ニ置キテ、平均ナ

此疑問決
ス可ラス

ラシム、而シテ、其體ノ位置、其諸種ノ目的ニ從ヒ、不意ナル運動ト、轉變スル運動トニ因リテ、時々刻々、變化スレハ、其平均ヲ失ハサル爲ニ、恒ニ陸續トシテ、意ヲ注レ氣ヲ周クスヘキナリ、而シテ今之ヲ爲スニハ、眼モ心モ兩ナカラ、此刻々ノ轉變毎ニ、精密ナル注意ヲ、要スルコト、極メテ肝要ナリ、如何トナレハ、若ク注意ナキ時ハ其運動齊整、樂師ノ調ノ如ク、互ニ繼カスレテ、觀念ノ伴生ニ依テ、連絡シテ、心裏ヨリ、發動セサレハナリ、此疑案ハ、一奇ナリト謂フヘシ、而シテ、爰ニ舉ケ

タル如ク、兩説、皆據證アレハ、余ハ、之ヲ、看者ノ自
 己ハ辨決ニ委スヘレ、士低瓦的氏ノ説、其心意ト
 筋維トハ、行爲ノ疾速ナルコトニ就キテハ、正レ
 キコト必セリ、而レテ又、上ニ舉ケタル諸例ニ於
 キテモ、真ニ然ルコトアリテ、純粹ニ自動力器械
 カノ行爲モ、アルコト、見エタリ、
 爰ニ講論シタル疑問ニ繼キテ、一ノ講求アリ、是
 心ハ恒ニ同一時ニ於キテ、一物ヨリモ多ク注意
 レ、若クハ注意レ得ル者ナリヤト、云フコトアリ、
 今余一冊子ヲ讀ム時、余ノ注意ハ、其中間ニ方リ、

吾人同時
 ニ一物ヨ
 リモ多ク
 注意レ得
 ルカヲ論
 ス

眼前ノ紙上ニ表セル意思ノ目的ヨリモ、他ノ事
 ニ、馳セテ在ルカ如レ、此時ハ一章一篇ノ終リニ
 至リ、讀レ所ハ如何ナリヤ、少モ、其念ヲ有セサル
 ヲ見ルナリ然レトモ、必、其全文ヲ、一行毎ニ、一語
 毎ニ、眼ヲ透シ、或ハ朗誦スルコトヲモ、得ヘキナ
 リ、然ルニ、此ノ如ク、行毎ニ、字毎ニ、觀ルハ、必注意
 ヲ要スヘキコト、ス、然ラハ、余ハ、同時ニ、兩物ニ、
 注意スル熱カテ、有スト云ヒテ、可ナリヤ、是ト同
 レク、樂師、人ト活潑ナル談話ニ沈ミツ、恬然常
 ノ如ク意ヲ用弁スレテ、彈鼓シ、踏索師、索上ニ身

士低瓦的
氏ノ説

ヲ立タレズ、又其體ノ諸部ニモ、諸種ノ物ヲ立タ
シメ、皆其平均ヲ占テ運轉毎ニ、時々陸續タル注
意ヲ要スルモ、同レク疑問タリトス、
士低瓦的氏ノ前ニ心ノ作用ノ疾速ナルコトニ
就キテ、立テタル見解ト一致レテ、吾人如何ナル
時ニテモ、同時ニ、意思ノ目的ヲ、取リテ、注意ス
ルコトナレ、然レトモ、援ク所ノ諸例ノ如キハ、其
心一物ヨリ、他物ヘ移ルコト、極メテ速カニ、自其轉
移ヲ識ルコト、能ハスレテ、一時ニ、兩物ニ注意シ
テ、在ルカ如ク見ユルナリト、主張セリ、

此見解ノ
解釋

諸種ノ物
非ズ比較
スルコト
ハ如何ニ
シテ為ル
ヘキドヲ
論ス

此説ノ解釋ハ、視官ノ例ニテ見ルヘシ、視ル時、眼
ノ向フ直線ハ、其外界ノ一物體ノ表面ノ一點ニ
在リ、然レトモ、其目一點ヨリ、他ノ一點ニ、轉過シ
テ、全面ヲ一目ニ知覺スル如ク、其轉移速ナルナ
リ、
今若同時ニ兩物ヲ、心ニ表ハスコト能ハサル時
ハ、一物ヲ他ノ一物ト比較スルコトハ、如何ニシ
テ、爲シ得ルヤ、今余、A字ヲ思フ時ハ、既ニB字ノ
何タルヲ思ハス、此ノ如キ時ハ、之ヲ比較スル爲
ニ、心ニ亞字ト彼字ヲ、共ニ表ハシ得ルハ、如何カ

成シ得ル、

此答ハ、余カ理會スル所ニテハ左ノ如シ、心ハ、一物ヨリ他物ニ轉移スルコト極メテ疾速ニシテ、兩物同時ニ、其前ニ現在スル時ハ、是ニ依リテ、生スル効ハ、同一ニ生スルナリ、凡テ心ノ轉移ハ、意識ニ供スル者ニ非ス、然レトモ、人若物ヲ比較スルニ方リテ仔細ニ自己心意ノ作用ヲ、觀察スル時ハ、其意思、一物ヨリ、他物ヘ移リ、決定シテ比較ノ立チ得ルニ至ルマテ、數次彼此ニ往返スルヲ、看破スヘシ、

第四篇 理會ヲ論ス

此處カノ
實狀

コンセプシオン、譯シテ理會ト云フ語ハ、諸家ニテ、種々ノ意味ニ、用井タリ、是元來、心ノ殊別ノ能力ニ非ス、今一物アリテ、之ヲ我カ意思ノ、殊別ノ目的ト爲ス時、之ヲ念フ時或ハ之ヲ我カ心ニ此ノ如キ物ナルヘレトシ、或ハ此ノ如ク、ハタ、彼カ如シト、會得レテ思フ時ハ此物ヲ理會スルナリ、心意中ノ此發動ハ、多少凡テノ我カ心ノ運用中ニ在リテ、知覺、記性、想像、抽象、辨決、論辨等ノ中ニ含メリ、是カ爲ニ、之ヲカノ諸種ノ殊別ナル能力

理會ノ目
的ヲ論ス

ノ一トシ、之ト列ヲ同クレテ、序ツ可ラサルナリ、
思慮ノ勢力ノ如ク猶且思慮ヨリモ一層廣キホ
トニ、凡テノ殊別ノ能力ノ基ニシテ、其能力ニ缺
ク可ラサル者ナリ、是在ケテモ、此語ノ元來ノ意
味ナリ、又此語ヲ以テ心ノ發動ノ一種ノ形容ヲ
徴スル爲ニ、之ヲ用ヰル時ハ、此尋常一定ノ意味
ヨリ、別ノ義ニテ用ヰルナリ、
理會ハ見サル物ヲ、理會スルナリ、譬ヘハ、今居サ
ル朋友ノ來ルカ如キ、他邦ノ都府ノ如キ、軍隊ノ
行列ノ如キ、火山ノ破裂ノ如キ、是ナリ、又數學上

理會ハ真
ナリトモ
偽ナリト
モナス可
ラサルヲ
論ス

ノ真理、若クハ、星學ノ問題等ヲモ、理會ス、我カ理
會ハ、嘗テ歷タル所ノ知覺、若クハ感覺ニ、限ルニ
非ス、且知覺スヘキ物體ニ、限ルニ非ス、又形質ア
リテ抵觸スヘキ物體ニ、限ルニ非ス、理會ニハ、過
去ノ事、未來ノ事、現實ノ物、觀念ノ物、形而下、形而
上、共ニ之ヲ包括セリ
吾人ノ理會ハ、理會ノミニテ、考フル時ハ、之ヲ真
ナリトモ、偽ナリトモ、謂フ可ラス、唯理會ニ、繼ク
ニ、決斷ノ用、若クハ信疑ノ用ヲ以テシ、少シモ、是
ニ涉レハ、乃チ真偽生スルナリ、今黄金ノ山、若クハ、

理會スヘキコトハ有ルヘキ事タルヲ必ス可ラス有ルヘ

玻瓈ノ山ヲ思ヒ、其如何ナルヘキヲ理會ス、然ルニ、此ノ如ク理會スルモ未タ真トシ、錯トスヘキコトナシ、然レトモ、之ヲ現實ニ、存在スルコト、ナシ、此處若クハ彼處ニアリトシ又此ノ如キ山ヲ、或ハ發見スル處アラムト辨決スル時ハ、其決其信、既ニ、或ハ真、或ハ偽ナルヘクシテ、既ニ、已ニ單純ナル理會トハ、謂フ可ラサルナリ
吾人ノ理會ハ、有ルヘキ事タルヲ、必ス可ラス、吾儕物ヲ理會スルニ、有ルヘキ事ノ域内ニ、無キコトアリ、又一方ニハ、各自ノ有ルヘキコトサヘモ、

キ事ハ理會スヘキ事タルヲ必ス可ラサルヲ論ス

理會ス可ラサル事アリ、今始ナキ、終ナキノ存在ハ、有ルヘキコトナリ、然レトモ、嚴ニ之ヲ言ヘハ、此ノ如キ事ヲ、理會スルハ、人ノ心カノ及フ所ニ非ス、上帝ノ存在ハ、此ノ如キ者タルヲ知り、而レテ、此ノ如キ命題ハ、其意如何タルヲ曉リテ、之ヲ信スルナリ、然レトモ、今自、之ヲ會得シテ、一都府若クハ、一大地ノ在ルヲ理會シ、又數學ノ命題ノ真理ヲ、理會レ得ル如ク、一定ノ曉悟領解ヲ、得サルナリ、
又無疆、及純全ノ觀念ニ於テモ、同シク然ル者ナ

是亦人心ニテ、懷ヒ得ヘキ思慮ノ區域内ニハ、
 非ルナリ、意思ハ、其性ノ本原ニ、物ノ界限ヲ具ス
 ル者ニテ、是尺度アリ、周圍ノ線アリ、包繞ノ際ア
 リト、考ヘシムル者ナリ故ニ、此考ヲ成レ得ヘキ
 間ハ、物皆現實ニ考フルコトヲ、得ヘクシテ、此考
 ノ成ル所ニ、物ヲ實ニ思慮スヘキナリ、然ル
 ニ、今、無疆自然、純全ノ觀念ハ、其本原ニ於キテ際
 限ナケレハ、人ノ思慮ノ狭キ圈内ニハ、包ヒ得サ
 ルナリ、是理會ス可ラサル者ナリ、然ルニ、今之ヲ
 理會ス可ラスト雖モ、吾人ノ思慮ニ、反言對ニレ

コトヲチクリ

理會ス可
 ラサルコ
 トハ有ル
 コトタル
 ノ如何タ
 ルヲ論ス

テ、考フ可ラサル者ニハ非ス、是皆真有ニレテ真
 有且實在ナリ、唯之ヲ、正レク理會スルコトハ、吾
 人ノ能ハサル所ナリ、
 前條ノ如ク、理會ス可ラサル事ハ、皆有ル可ラサ
 ルコトタルニハ非ス、又一方ニテハ、有ル可ラサ
 ルコトハ、悉ク理會ス可ラスト謂フ可ラス、然レ
 トモ理會ス可ラサルコトハ、有ル可ラサルコト
 ニ屬スル者アリ、是唯其事タル、自己反言對タル
 時ハ、即然ル者ナリト、知ルヘシ、一物ヲ同時ニ、有
 リトシ、無レトスル事、部分ト全體ト、同一ナリト

スル事又其事タル思慮ノ法ト相反スル者ナリ
 時ハ亦然ル者ナリ、二直線ニテ、空間ヲ周繞スル
 事源因ナキ事ノ生スル事、物質ノ存在ニ、空間ヲ
 須要トセス、事件ノ沿革ニ時間ヲ須要トセサル
 事此等ノ事ハ、考フ可ラサルコトナリ、音ニ考フ
 可ラサルノミナラス、思慮ノ定法ニ、相反スル者
 ナリ、是反言對ナルヲ以テ、有ル可ラサルノ事ト
 スルノミナラス、亦理會ス可ラサル事ナリ、或ハ
 吾人ノ理會ニ供スルコトヲ以テ、有ルヘキコト
 ノ界トスル說ヲ取り、學士威蘭モ、此ノ如ク說キ

士低瓦的
 式ノ理解
 ト云フ語
 入用法ヲ
 論ス

タルトモ、是真理ニ非ルコト必セリ、
 士低瓦的氏ハ、理會ト云フ語ヲ、較異ナル意ニ用
 井是ヲ心ノ諸能力ト並ヘテ一定ノ位ニ置キタ
 リ、士低瓦的氏ハ、心ノ勢カノ、前時ニ受ケタル知
 覺若クハ、感覺ニ就キテ、今現在セサル念ヲ生セ
 シムル者ヲ徴スル爲ニ用井、吾人感覺レ、若クハ、
 知覺レタル者ノ、毫釐ノ差違ナキ寫レテ、現ハス
 コト、此能力ノ官司タリト云ヘリ、此ノ如クナレ
 トモ、想像カトハ、異ナリ、想像カハ、毫釐ノ差ナキ
 寫レテ、現ハス者ニ非ス、我カ理會ヲ結合レテ、新

此用法ヲ
取ス

タナル功ヲ奏セシムル爲ニ、多少必變更アル者ナリ、又記性トモ異ナリ、記性ハ、時間ノ觀念ヲ含ミ、且前時知覺シタル物トシテ、認識スル者ナレトモ、理會ニハ是ナキナリ、

此ノ如ク、此語ヲ用ヰルハ、駁スヘキ一理アリ是實ニ、此語ノ本來ノ義ニ非スシテ、世間一定ノ用法ヨリ、外レタリ、是擅ニ、語ノ本義ヲ縮ム、此語ノ元來徴シタル全體ノ旨趣ヨリ、一部分ヲ抽キ去リテ、徴スルナリ、今此例ノ旨趣ニ於キテ、何ヲ以テ、吾人知覺若クハ感覺ニ就キテ、現在セサル目

的ニヨリ、生スル念ヲ理會ト名ツケ、又何ヲ以テ、道德學若クハ、數學ニ於キテ、命題問題ニ係ハル抽象ノ真理ノ念ハ、理會ト名ツク可ラスト云フヤ、是一モ、解スヘキ道理ナレトス、余ハ、真理ノ念ニ、此名ヲ命セスレテ現在セル知覺感覺ノ念ヲ、特別ノ切要トシテ、特、此名ヲ下タスハ、何ノ意義タルヲ知ラス然ルニ又哈美爾頓氏ハ、此理會ト云フ語ヲ、後ノ一種ノ理會ニリミ限レリ、然レトモ、是亦世間一定ノ用法ト、一致セサル者ナリ、

第一部 表現力ヲ論ス

第一篇 覺性、即五官ノ知覺ヲ論ス

第一章 總論

此能カ、吾人知識ノ基礎タルヲ論ス

心意ノ認識ス、司トル勢力ノ中ニテ、第一ニ、表章スヘキ者ハ、前ニ示シタル分解配賦ニ從カヘハ、表現力ニレテ、即、五官ニ依リテ、外界ノ物體ヲ認識スル勢力ナリ、此勢力、時限ニ就キテ論シテ、少シニテモ總テ吾人ノ認識スル諸勢力ノ基礎ヲナシ、實ニ我カ心意全體ノ發動ノ根本タルヲ以テ、之カ爲ニ吾人第一ニ著目スヘキナリ、蓋、此覺性ノ助ヲ假ラサントモ、心意ノ發動ヲ有スヘキ、

此ノ如キ完全ナル一體ヲ理會シ、如旃、一ノ隱微ナル法ニ依リテ、外界ノ物體ヲ自、認識スヘキ、此ノ如キ心意アルヲ、認識シ得ルナリ、然レトモ人ハ、此ノ如キ體ニ非ス、又人心ハ、此ノ如キ性質ヲ具セサルナリ、其發動ハ、第一ニ、覺性ニ由リテ、提醒ヲ受ケ、覺性ヨリシテ、外界ノ知識ヲ取り是ヨリ何ニテモ、自己ト云フ己カ性靈ニ服従スル一因ノ、外部ニ在リ、及ハサル所ニ在ル物ヲ知ルナリ、然ルニ、吾人、凡百ノ知識ハ、嚴ニ之ヲ言ハ、覺性ヨリ取ル者ナルカ、然ラサルカ、是嘗テヨリ、爭

此能力ハ、
一般ノ情
狀ヲ論ス

フ所ノ疑問タルハ、爰ニ之ヲ論セスレテ、止ムヘ
ク然レトモ、覺性ノ發動ト、此發動トニ因リテ、得
ル所ノ知識トハ枉ケテモ、吾人凡百心意才能ノ
基礎元始タルハ、疑フ可ラサルナリ、吾人恒ニ陸
續トレテ、五官ニ由リテ、外ヨリ印象ヲ受ク、此路
ニ由リテ、此心、首トレテ、發動ス、ヘリ、提起セラレ、
而シテ、此源本ヨリ、我カ外界ノ知識ヲ取ルナリ、
今論スル能力ハ、其名ニテ示ス如ク、其一般ノ情
狀ハ、表現スル直覺ナリ、是物體ヲ再現スルニ非
スレテ直ニ表現スル者ナリ、是省察反射ノ効ニ、

此能力ニ
様ノ元ヲ
含有スル
ヲ論ス

非スシテ、心ノ知覺スル者ヲ、直ニ認識スルコト
ニテ、此知覺ヨリ得タル知識ハ、直ナル知識ナリ
即時間ト空間トニ於キテ言ヘハ、今且爰ニ現在
スルヲ知ルナリ、
一層綿密ニ、此能力ノ情狀ヲ見ル時ハ、此中ニ、二
様ノ元ヲ、含ムコトヲ見ル、是他ノ語ヨリ寧主觀
及客觀ナル語ヲ用井ルノ、勝レルニ如カサルナ
リ、先第一ニハ、一ノ知識アリ、是我自己覺性アル、
機官攪動ヲ受クルコトヲ、自識ルナリ、又第二ニ、
一ノ知識アリ、是我カ外部ニ、物アルヲ知ルニテ、

心自己、即此我ナル者ニ拘ハラスシテ之ヲ、我ガ
 機官ノ攪動ヲ生スル源由トシテ知ルナリ、故ニ
 吾人今、知覺ト云フ同一ノ作爲ニ於キテ、攪動ヲ
 受クル自己ト、我ヲ攪動スル外部ノ物ノ、存在シ
 テ、前ニ現在スルトヲ、知ルナリ、是自然ニシテ、此
 我ナル者ト、此我ニ非ル者トノ、互ニ相關ラスシ
 テ、各別ニ現存スルヲ、假ニモ定メシムル者ニテ、
 即意思アリ、覺性アル體ノ我ナル者トシ、又我カ
 外部ニ在リテ、物質タル者ナリトス、此別、凡テ覺
 性ノ知覺ニ於キテ、基礎タル者ナリ、凡テ五官ヨ

リ取ル知覺ハ、知覺スルコトヲ得ヘキ覺性ヲ、具
 ヘタル體ト、知覺セラレ、コトヲ得ヘキ物體ト、
 ニ、ノ者ノ存在ヲ含有レ、且擬定スヘキナリ、此ノ
 如クニレテ且又ニ、ノ者ノ相關スルハ、第二ノ者
 ノ現在スルニ因リテ、第一ノ者ハ、攪動セラレ、
 ナリト定ムヘシ、爰ヨリレテ、二様ノ知覺、即知覺
 スル心ノ方ニ就キテノ知識ニ、一時ニ攪動ヲ受
 ル自己ト、之ヲ攪動スル物體トノニアル理ノ、發
 スルナリ、而シテ、此三元ノ一、其他ノ者ヨリモ一
 層切ニシテ、直ニ注意ノ目的トナルニ從ヒ、知覺

作為ニモ、亦主觀ノ情狀ト、客觀ノ情狀ト、互ニ旺
スルコトアリ、故ニ若主觀ニ由ル時ハ吾人首ト
シテ、此我ナル者、攪動ヲ受ケタル者ニ、意思アリ
テ、攪動ノ源由即之ヲ起ス因タル、外部ノ物體ヲ
ハ幾ト覺エサルカ如ク、若客觀ニ由ル時ハ、之ニ
反スルナリ、

第二章 知覺ノ運用ノ分解

表現力ノ性質ハ其運用ノ種々ナル歩ヲ、綿密ニ
視察シテ能領會スヘシ、今外界ト相接スル時、意
識ニ呈ハル、所ノ第一事ニシテ、認識ノ運用ノ

單純ナル
感覺ヲ論
ス

初歩ハ、必單純ナル感覺タリ、物我ニ觸ル、トキ
我カ體ノ機官、之ニ攪動セラル、同時ニ、我、一定ノ
感動アリ、感覺アルヲ識ル、然レトモ、何物カ、此感
覺ヲ生シタル、ハタ、外物之ヲ生シタリヤ、是未、知
ラサル所ナリ、然ルニ此時未之ヲ體ノ機官ノ攪
動ヲ受ケタル効ナリト認メス、況ヤ、精神ノ本原
ト、機官トヲ區別レテ、認ムルコト有ルヲ、唯一
定ノ感動アルノ、是即單純ナル感覺ニシテ、純
粹ナル主觀ノ運用ナリ
然ルニ吾人唯此場地ニ、止マルニ非ス、同時ニ其

單純ナル
感覺タル

ヲ知ルヲ
論ス

感覺ヲ攪
動ヲ受ケ
タル諸部
ニ分賦ス
ルヲ論ス

心、カノ現象ノ生シタルニ因リテ、提起セラレ、爰ニ、意ヲ注スルナリ、乃、是感覺感動ナルヲ認ム、此ノ如キ類ヲ、我カ體驗スルコト、第一次ナラズレテ、再三ニ涉タル以上ハ、我カ嘗テ感シタル感覺ト、今ノ感覺トヲ區別スルナリ、又此場地ニモ止マラス、唯其感覺ヲ自識ル耳ニ非スレテ、我カ體ノ機官ノ、攪動ヲ受ケタルヲ知リ且又、機官ノ中ニテハ、彼此ノ部分タルヲ知ル、乃、此時ハ、體ト、感覺スル者ノ居所トヲ區別シ又體ノ内ニテモ、攪動ヲ受ケタル部分ト他ノ諸部

トヲ區別スルナリ、是ニ於キテ、攪動ヲ受ケタル機官ハ、之ヲ管轄活動スル意思アル心ヨリ、別物トシテ、之ヲ以テ、意思ノ目的トナス故ニ、是恰モ、我ニ於キテハ、外物ノ如ク、其大小廣狹アリテ、我ヨリ別ニシテ、我ニ部屬タリトス、此ノ如ク見テ、今初頭ニ我カ意識ノ眼前ニ置キタル時、我ニ於キテハ、此我ニ非ル者ナリトシテ知ラレタリ、然レトモ、猶感覺ニ依リテ、我即覺性ノ本ト、連結レタリト見、乃、我カ感スル所ノ感覺ハ、此機官若クハ其機官若クハ機官ノ一部、手若クハ足等ノ、攪

此機官ヨ
ノ外ナル
物ノ認識
ヲ論ス

動ヲ受ケタルナリト知ルナリ、此ノ如ク其感覺
機官若クハ此部若クハ其部ニ屬スルトレテ認
ム、故ニ、機官ヲ覺性フル心ヨリ、別物トシテ、攪動
ヲ受ルコト、云々タリト云フハ、既ニ已ニ、單純ナ
ル感覺ニ非スシテ、即チ知覺ナリ、
是亦、直ナル知覺ノ、尤單純ナル形狀ナリ、然レト
モ、此運用ハ、必、爰ニ止マルニ非ス、今唯攪動ヲ受
ケタル、我カ機官ノ、此部若クハ、其部ニ就キテ、意
識アルノミナラス、又且、機官ノ外ノ物、機官ト接
シテ、之ヲ攪動スルコトヲ知ルナリ、此機官、我ト

連絡スル者ハ、感覺ノ在ル所ニシテ、知覺ノ目的
タリ、然レトモ、是我カ執意ニ從ヒテ、自、運動ニ供
スヘキ者ナリ、故ニ吾、我カ身ヲ動カス時ハ、自、其
努力ヲ識リ、而シテ又我カ機官ト、接スル外部ノ
物、此運動ニ、抵抗スルコトヲ識ル、然ルニ此物ハ、
未、知レサル者ナレトモ、乃チ注意知覺ノ目的トナ
ル、是、新ナル現象ニシテ、抵抗ト云ヒ、即チ抵抗スル
物タルナリ、而シテ、今、吾、抵抗ヲ受ケタリト、知覺
スルハ、物アリテ抵抗スルヲ、知覺スルニテ、此ノ
如ク、知覺スルハ、其此ノ如キ抵抗ヲ呈スル物ヲ、

知覺スルナリ、然レトモ、其抵抗ニ就キテ、其物タル、如何ヲ知ラス、又物ノ性質等ヲ、悉クシ知ルニハ非サレド、唯物ノ爰ニ存在スルト、物ハ、我カ機官ヨリ、外部ノ物タルト、又其物、我カ運動ニ、抵抗スルトヲ、知ルナリ、此ノ如クニシテ、外界ト云フ者、直ニ、我カ知覺ノ目的トナリ、直ニ、我カ意識ノ眼下ニ來ルナリ

此運用ノ性質ヲ、一層明亮ニ、解釋スル爲ニ前ノ分解法ニ於キテ、知覺ノ作爲ヲ、區分割析シテ、其進趨ニ、諸等ノ歩アリトシ、數種ノ各別ナル、部分

運前ノ此
諸歩ヲ區
別スルノ
義如何ヲ
論ス

トシテ視タリ、然レトモ、是性理上ニ論レタル時ハ、其事タル、嚴ニ精密ス、極メタルニ非ス、今致知學上ニテ論スレハ、單純ナル感覺ハ、唯一時ノ感動タルヲ以テ、攪動ヲ受ケタル體ノ機官ハ、此部若クハ、彼部ノ感覺トニ就キラ、之ヲ區別シ、又機官ノ感覺ヲ、更ニ接觸抵抗ニ依リテ、感覺ヲ生スル外部ノ物體ヲ、認識スルコト、區別スルコトヲ得ヘシ、然レトモ、時ニ就キテ論スレハ、此作爲皆同一ニシテ、區別ス可ラサルナリ、感覺モ、知覺モ、共ニ同一時ニ於キテス、故ニ、覺性ノ知覺ヲ感

知覺ト云
フ語ハ、狭
キ意味ヲ
論ス

覺ノ意識トシ、體ノ機官ノ意識ヲ、感覺ニ依リテ、
攪動セラレタリトシ、外部ノ物ニ就キテ、意識ア
ルヲ、其攪動ノ近因トシテ、剖折シテ、知ルコト能
ハサルナリ、今一ノ感覺ヲ歷ルハ、覺性アル機官
ノ此處若クハ、彼處ニ、感覺ヲ受クルニテ、接觸抵
抗ヲ覺ユルハ、接觸レテ抵抗スル物ヲ覺ユルナ
リ、然レトモ唯外部ノ起因ヲ認ルコト無レト雖
モ、感覺ハ存スルナリ、
上ニ云ヘル見解ニ從ヘハ、知覺ハ、直ナル者ニモ
引證ノトニモ非ス又轉廻反射スル運用ニモ非

ルナリ、故ニ、其體ノ機性、攪動ヲ受クル云々
リト云フト、并ニ其體ノ運動ニ於キテ、其機官
ヲ、攪動シ、若クハ、制停スル外部ノ物トシテ、機官ノ
感覺ト、同一時ニシテ、直ニ認メ直ニ識ル者ナリ
然ルニ平常ハ、此語ニ一層廣キ義ヲ附シ、是ニ因
リテ、一ノ能力ヲ徴シタリ、此用ヲニテハ、心意ノ
運用ノ其起因トシテ、外部ノ物ニ係ハル一種ノ
感覺ヲ提起スルコトヲ、總ヘテ含メリトス、來德
及士低瓦的ハ、此ノ如ク此語ヲ用キ而シテ、實ニ
此ノ如ク用ヰルコト、此語ノ平常トナレリ、此說

ニ從ハハ、今人芳香ノ感覺ニ觸ルレハ、此感覺ヲ、
 薔薇ノ在ルニ歸シ、音響ノ感覺ニ觸ルレハ、之ヲ
 鐘ヲ撞クコト、若クハ、車ノ過ルコトニ歸レテ、知
 覺ノ能力ヲ、陳フルト云フナリ、然レトモ此例ニ
 テハ我カ知識全引證ト、辨決トノ上ニ在テ、媒介
 ナキ直^チナル知覺ニアラス、凡テ知覺ノ事實ナキ
 コト著シ、今人此ノ如キ時ニ方リテ、正シク知覺
 シ、直^チニ、此知覺ニ就キテ、意識アル者ハ、概スルニ、
 芳香ト音響トナリ、此芳香ト音響トノ、薔薇ト鐘
 トヨリ生スルコトハ、知覺スヘキニ非ス、唯此ノ

感覺ヲ知
 覺ヨリ區
 別レテ論
 ス

如ク理會シ、此ノ如ク引證スルニテ、概レテ言ハ
 ハ、以前ノ實驗ノ助ニ依リテ知ルノミ、
 此後說ニテハ、感覺ハ、知覺ヨリ別ニシテ、機官ノ
 一定ノ攪動ヨリ發スル單純ナル感動トシ、是唯
 世ニ感動トシテ、知ル所ナリ、知覺ハ、機官ノ攪動
 ヲ、感動トシテ認ムル上ニ、又此ノ如ク、攪動セラ
 レタル機官ヲ認ム、故ニ又、之ヲ我ヨリ外ナル者
 トシ、其廣狹大小諸部等ヲ、認識スルナリ、是又其
 機官ノ外部ニ在リテ、機官ノ運動ヲ制停シ、若ク
 ハ攪動スル物體ニマテ及フナリ、故ニ、知覺ニハ

感覺ハ必先タツヘク、缺ク可ラサルノ情狀タリ、
 若、絶エテ、感覺微カリセハ、知覺ハ、曾テ有ルコト
 ナシ、然レトモ、時ノ序^テニテ言ヘハ、ソノ一必先タ
 ツニ非ス、又他ノ一ハ、是ニ繼クニ非ス、唯感覺發
 スレハ、斯ニ知覺共ニ來ル者ナリ、然ルニ此ニッノ
 者共ニ存レテ其強弱ハ均レカラス、是哈美爾頓
 氏ノ說ノ如ク、互ニ成方反比ノ例ニ於キテ、相關
 スル者ナリ、即一定ノ度ヲ越ユルノ後ハ感覺愈
 強ケレハ、知覺愈弱シ、其反スルモ、亦是ニ同シ、
 感覺ハ、全、心裏ニ在リトレテ、論スルハ、尋常ノ事

感覺ノ心ノ攪動ト

スルヲ論ス

ナリ、然レトモ最初ハ、是神經ノ機官ノ攪動ニレ
 テ、此ノ如ク、攪動ヲ受ル時ハ、其機官ヨリレテ、心
 ノ上ニ、印象ヲナスナリ、若、感覺心ト機官トニ現
 レスレテ、機官ヨリノ印象ヲ受ケス、機官ノ變化
 ヲ感セサル時ハ、縱、機官變化ヲ生レ得トモ、總テ
 之カ意識アルヲナク、之ヲ感スルヲ莫カルヘシ、
 蓋、此ノ如キコト、神經ノ一定ノ形狀ニ於キテ、現
 實ニ起ルコトアリ、即熟睡ノ時、磁化ノ時、又埃埜
 爾哥囉叻水、阿芙蓉液、及東國產ノ麻醉劑ニテ昏
 睡スル時ノ如シ、此時ニ方リテハ、心ト神經ノ機

官トノ連絡一ノ道理アリテ、間歇シテ、是カ爲ニ、
一時ハ、感覺ナキコト、見エタリ、故ニ此時ハ、神
經ヲ衝動刺戟シ、且之ヲ分疏ストモ、猶痛痒ヲ覺
エサルナリ、

故ニ感覺ハ、全心裏ニ在リト謂フハ、眞ナラス、是
生活スル機官内ニ在リテ、心即精靈ノ本ヨリ、爰
ニ遍通シ、極メテ神妙ニシテ、其機官ノ諸部ニ現
ハレ、其變化ヲ認識スルナリ、故ニ體ニノミ、此能
カヲ具ヘタリトモ、心ニノミ、具ヘタリトモ、謂フ
可ラスレテ、ニツノ者、相合シ、此組織セル且靈妙ナ

ル合一ヲナス者、是吾人現在ノ本體ナリ

第三章 諸物體形質ノ分解并ニ彙

類

諸物體ノ形質、感覺ト知覺トニ由リテ、吾人ニ知
ル、者多クシテ、且諸種アリ、一トタヒ之ヲ、査確ス
ル時ハ、彙類ノ本トナスニ足レリ、此形質ノ中、多
クノ差異アルヲ見ル、其中、一種ハ、物質ノ眞ノ存
在ニ、缺ク可ラスレテ、少ナクトモ、吾人物質ニ就
キテ考フル時ハ、必要スル所ノ形質アリテ、一目
下ニ現ハル、者アリ、是物ノ念ヲ作ル時ハ、此形

形質ノ差
異ヲ論ス

質ヲ奪フコト能ハスレテ其物質ヲ理會スルニ至テモ猶存スル者ナリ、又其他ノ一種ハ此ノ如キ性ヲ有セサル者ナリ、長廣厚、分性、大小、形狀、位置、尚此等ノ形質ハ前ノ一種ニ屬ス、故ニ今一物體全ク存在スル時ハ我カ自己ノ理會ニ從ヒテ必此形質ヲ具セサルヲ得サルナリ、吾人此等ノ形質ヲ物體ヨリ除キテ考カヘ物質猶存スト謂フヲ得サルナリ、然レトモ聲色臭味、寒熱、輕重、硬軟等ニ至リテハ之ヲ物質ヨリ褫ヒ去リテ理會スルコトヲ得ヘキナリ、是蓋其存在ニ必トセサル

偶然ナル性質タリ

其名目區別如何ヲ論ス

哲學ノ諸家前ノ一種又第一形質後ノ一種又第二形質ト呼ヘリ、蓋前ノ一種ハ先天ヨリ知ルヘク後ノ一種ハ實驗ニ依リテ知ルヘク前ナル者ハ其形質タル其形質ノ上ノニテ知ルヘク後ナル者ハ我カ五官ノ攪動ヲ受クルニ依リテ知ルヘキ耳

第一形質ハ左ノ如ク形容スヘシ

第一 此形質ハ皆物質ノ真ノ存在ニ缺ク可ラス、少ナクトモ吾人ノ理會ニ必要スル者

ナリ

第二 是皆先天ヨリ知レタル者ナリ

第三 是皆他ノ助ヲ要セス、自己ノ上ニテ知

ルヘシ

第二形質ハ、上ニ反スルコト、左ノ如シ

第一 偶然ナル者ニレテ、物體ノ念ヲ作ルニ

缺ク可ラザルニ非ス

第二 唯實驗ニ依リテ知ルヘシ

第三 五官ノ攪動ヨリ知ルヲ得ヘシ

然ルニ、第二ノ形質ハ、尚且之カ區別ヲナスヲ得

第二形質
中、區別

ヲ論ス

ヘシ前ニ定メタル第二種ノ中ニハ、實ニ又二種

ヲ包括セリ、ソレ我カ五官ニ由リテ知ルヘシト

雖モ、我カ五官ニ關ハラス、其存在、外部ノ物體ノ

形質ヲ有スル者アリ、故ニ、此類ハ、皆直ナル知覺

ノ目的タリ、又他ノ一種ハ、更ニ諸體ノ形質トシ

テ知ル可ラスレテ、唯覺性ノ攪動ヲ受クル者ト

スヘシ、客觀トシテ、視ル可ラスレテ、主觀トシテ

視ルヘク知覺トシテ、視ル可ラスレテ、感覺トシ

テ、視ルヘキ者アリ、今黃橙アレハ、之ニ就キテ、真

味ト色トヲ辨識ス、然ルニ、其辨識レタル所ハ、最

此二種如何區別
スハヤ
論

後ニ、皆唯一ノ感覺ニシテ、我カ自己機官ハ、一種ノ攪動タルニ外ナラス、故ニ、我カ内部ニ、此感覺ヲ提起スルノ原因タル物體ニ於キテハ、性質即形質ノ異ナルハ我之ヲ知ルニ由ナレ、我カ知覺ハ、凡ヘテ其形質マテ至ルコトナレ、是全、輕重、硬軟、縮張、流動、彈力并ニ他ノ此種類ノ者トハ異ナルナリ、此形質ハ、皆知覺ノ目的ニシテ、唯感覺ニノミ、屬スルニ非サルナリ、爰ニ舉ケタル種類、即知覺ノ目的タル者ハ、其物體他ノ物體ニ、關係シテノ形質ナリトシ他ノ一

感覺ト外
部ノ物體
トノ連絡
ヲ論ス

種類ハ、唯我カ神經ノ機性ニ、關係シタル、物體ノ形質ナリトス、故ニ前ナル者ハ、空間ヲ塞キ、空間ニ動クノ關係ニシテ、抵抗力ノ表目内ニ歸スヘク、後ナル者ハ、我カ内部ニ、一定ノ感覺ヲ生セシムルニ係ハル、故ニ前ナル者ヲ、力學上ノ形質、後ナル者ヲ、性學上ノ形質ト名ツクルナリ、感覺ヲ起ス、外部ノ物體ト、感覺トハ、舊來ヨリ、合一ニシテ、説キタル習アルヲ以テ、今一説ヲ舉ケテ曰ク、臭味ノニッハ、唯我カ五官ノ攪動ヲ受ケタルナリ、曰ク、色ハ、唯實ニ觀者ノ視神經ノ攪動タ

ルニ外ナラス、曰ク、此諸例ニテ、現實ニ知覺スル者、元來外部ノ物體ノ形質ニハ非スト、此ノ如キ説ヲ以テ、人ニ解説セント欲スルハ、極メテ難事タリ、然レトモ、少シク省察ヲ加フル時ハ、此諸例ニテ、吾人ノ知識トナリ、吾人之ヲ正シク認識シタリトスル者、凡テ我カ自己神經機官ノ攪動ニシテ、我カ内部ニ、此感覺ヲ起ス源由タル物體ニ於キテハ、縱其形質如何ナリトモ、是皆隱密ニシテ、知ル可ラサル者タルコトヲ、能ク證見スルヲ得可シ

此感覺ヲ起ス勢力ヲ論ス

今外部ノ物體ノ中ニ一定ノ時ニ臨ミ、我カ内部ノ感覺ヲ起ス勢力在リト謂フハ、固ヨリ拒ム可ラサルナリ、然レトモ、此勢力ト云フ者ハ、何ニ本ツク者ナリヤ、其聚合情狀ノ奇異ナル、如何ニアリヤ、是吾人ノ知ラサル所ナリ、且又、此起ス勢力ト、勢力ニ因リテ、生シタル効驗トニ就キテハ、今唯相通シテ一個ノ名ヲ有スル耳、故ニ色味臭等ノ語ハ、物體ニ就キテ、我カ内部ノ感覺ヲモ徴シ、又感覺ヲ提起スル物質ノ知ル可ラサル性質ヲモ、徴スルナリ、今茲ニ論スル形質ヲ元來諸物體

爰ニ諸類
セシ諸種
ノ形質ス
枚舉ス

ノ形質ト名ツケ得ル所以ハ、即此兩徴ノ意味ニ
テ、通スベキナリ、
爰ニ造爲セシ彙類ノ法ニ從ヒテ、諸體ノ形質ヲ、
枚舉スルコト左ノ如シ

第一 第一形質ハ、長廣厚、分性、大小、稠疎、形狀、

壓捺イシヤクス可イシヤクヲサルノ極度、運動位置ナリ

第二 第二形質

甲 客觀、即力學上ノ形質ハ、輕重、硬軟、堅固、
及流動、疎鬆、及平滑、壓捺スハキ、及壓捺ス
可ラサル、彈力アル及彈力ナキ、并ニ、他ノ

引力撥力ヨリ發スル、此ノ如キ一般ノ種
類ノ形質ナリ

乙 主觀、即性學上ノ形質ハ、聲色、臭味、寒熱、
摩擦的ノ感覺并ニ、此ノ如キ種類ニテ一
定セル五官ノ攪動ナリ

第四章 五官ノ具○其諸種官能ノ
分解

尋常諸種ノ官具ヲ算シ其數五アリトス、然ルニ
是皆一種一般ノ覺性、其法ヲ異ニスル者トシテ
視ル可シ、即觸覺是ナリ、又之ヲ釋スレハ、神經ノ

機官ノ數
ヲ論ス

之ニ抵觸セル外部ノ實體ニ因リテ、衝動ヲ受ク
ル者ナリ、是何レノ處ニテモ、感覺ニハ、缺ク可ラ
サルノ情狀ニシテ、諸種ノ官モ、亦唯此衝動ヲ現
ハスノ様法ニ於キテ、各其數ニ應スルノ異アル
ノミ、然ルニ、又此様法ノ異ナル者、五アリトシ、其
他ヲ取ラサルハ、一ノ道理アリ、解剖學ニテ、其組
織ヲ別テ、各一官ナリト云フ、即耳ヲ一官トシ目
ヲ一官トスルカ如シ是蓋、神經ノ器ノ別部ナル
コト、猶鼻ト味トノ別ナルカ如シ、唯神經ノ全體
ハ、體ノ全面ニ布蔓レテ、觸覺ノ總覺性ニ、歸スル

五官互ニ
相關スル
ヲ論ス、○
并ニ各官
司ル所ノ
別

者ナリ
此五官ノ、互ニ一定ノ關係ヲ有スルハ、甚著明ニ
レテ其官タル五、ニシテ足レルハ、唯偶然ニシテ、
然ルニ非ス、又唯體ノ機性ニ於キテ、五官ノミ、容
ル、ノ地アリトスルニ非ス、又唯五官ノミヲ具
スルハ、便利ナル耳ニ非サルナリ、今吾儕、此各官
ノ司ル所ヲ、觀察スレハ、各官皆別種ノ官能ヲ有
シ、互ニ之ヲ交換ス可ラズレテ、生活體ノ家道ニ
ハ、多少必須タルヲ、視ルナリ、吾人ヲレテ、此五官
ノ呈スル所ニ因リ、直ニ、若クハ、媒ヲ取りテ、外界

觸覺ノ官
ノ官能ヲ
論ス

ノ正レキ知識ヲ得シムル爲ニ、此五官ヲ設ケテ、
之ヲ用井シムル者ナルヲ察シ、之カ講究ヲナス
ヘシト定メハ、次ノ問目ヲ得ヘレ、曰ク、人ハ之カ
爲ニ、如何ナル官ヲ有スヘキ、曰ク、此物質上ノ萬
有ハ、何物タルヲ、知ラサル時ハ、人ハ如何カ、爲ス
ヘキ、
物ハ一定ノ性質ト、關係トヲ有レテ、空間ニ在リ
テ、我カ周匝ニ存スル者ナリ、然ル時ハ、吾人、首ト
シテ、第一ニ要スル所ノ一官アリ、即此ノ如ク存
在スル物體ヲ、我ニ認メシムルノ官ニレテ、是ニ

此官ノ界
限如何ヲ
論ス

由リテ、空間ニ於キテ、我カ周匝ニ、直ニ我ニ接ス
ル物ヲ認識セシムル者ナリ、是ニ於キテ吾人一
般ニ、觸覺ノ官ヲ有ス、是ヲ以テ、外部ノ物體ノ、客
觀上、即カ學上ノ形質ヲ、認知スルヲ得ルナリ
然ルニ、此官ハ、唯近距離ニ在ル物體ニレテ、相接
スル時ニノミ、用ヲナスヘレ、此官ノ運用ハ、總合
法ニレテ、漸次ヲ要ス、我カ官次ヲ逐ヒ、物體ノ諸
部ニ接觸レ、物體ノ一部一部ヲ認メテ終ニ、其運
用全クシテ、其諸部ノ總合シタル時、我カ悟性、其
全體ヲ結構シ得ルニ、至ルナリ

此界限ヲ
廣ムヘキ
一官ノ有
ルヘキヲ
論ス

吾人又一官ニ就キテ、理會スルコトアリ、是前ノ
官ト異ナル所ニ、アル者ニシテ、其一ハ抵觸ス可
クサル遠距離ノ物ヲ、認識スヘク、其一ハ、其運用
分解法ニ在リテ、全體ヨリノ部分ニ及ビ前ノ如
ク、部分ヨリ、全體ニ及フ者ニ非ス、是ヲ以テ、一次
ニシテ、物體ノ全體、若クハ、數物體ノ一列ヲ、知ラ
レムル者ナリ、是容易ク、知リ得ヘキカ如ク、此ノ
如キ官ハ、其利、極メテ廣クシテ、前ニ論シタル一
官ト、相助ケテ、我カ智識ノ圈内ニ、外界萬有ノ、殆
ト十全ナル一連絡ヲ、呈スヘキナリ、是吾人ノ有

此新シキ
一官ニ猶
界限アル
ヲ論ス

スル所ニシテ、視ルノ官、正ニ之ニ合ヘリ、即チ視ル
ノ官ハ、距離ヲ隔テ、物體ヲ認メ、又一目ニシテ
其全體ヲ、知ラシムル者ナリ、
此新シキ一官ハ、極メテ利便、又極メテ必用ナリ、
然レトモ亦、界限アルヲ免レサルコト、明ナリ、何
トナレハ、是唯光ト云フ一定ノ媒介ニ依リテ、利
用ス可レハナリ、今嚴ニ其所以ヲ語レハ、吾人ノ
視ル者ハ、光ニシテ、遠キ物體ニハ非ス、言ハ、種
々ノ變化ヲ極メテ、物體ヨリ、目マテ涉ル所ノ、光
ノ媒ニテ、之ヲ中ニ立テ、認メ得ルナリ、故ニ今ニ

十四時間ニ、數時ノ間、起リ得ルコトノ如ク、其光
缺乏スル時、若クハ、又目ヲ注セムトスル所ノ一
形體ト目トノ際ニ、一物在リテ之ヲ障ヘ、其形體
ヲ掩ヒ隱ス時ハ、此官ノ由リテ、知識ヲ得ル道ハ
悉ク塞カルナリ

尚他ノ一
官ノ來ム
ハキヲ論
ス

此ノ如キ事情ナレハ、尚爰ニ、一官ヲ加ヘサレハ、
足ラサル者アリ、此官亦同シク、一般ニ通スル性
質ニシテ、之カ爲ニ設ル者ナリトハ雖モ、其運用
ヲ施ス煤价、前ト異ニレテ、凡テ生活體ノ在ル處
ニハ、必^ス何處ニモアル者ナリトス、故ニ、中夜ノ暗

黒裏ト雖モ、又囹圄ノ朦朧中ト雖モ、猶周匝ノ物
體ニ於キテ、或事ヲ知ル方略ヲ有スルナリ、而シ
テ、又此煤タル者ト、此官ノ通路トハ我ニ在テ、一
定ノ度マテハ、之ヲ管轄シテ較之ヲ轉回スルコ
トヲ得、又我カ同輩諸體ト、好ニ應ヒ、意ヲ通スル
紹介タル如ク、此ノ如キ性質ヲ有スル者トス、此
ノ如キ設ハ豈大利用ニアラスヤ、此諸事ハ、實ニ
要求スヘキ所ニレテ、而シテ、其要求ハ、正レク
約束ニ應スル新ナル一官ニ依リテ、償足レテ、以
テ、此目的ヲ達スヘシ、是即聽クノ官ニシテ、聲音

ヲ認メシムル者ナリ是吾人意ニ任セ、或ハ說話ニ於キテシ談說若クハ、歌謠ノ如ク、聲調ニ於キテシ、或ハ分明ナラサル叫號ニ於キテ、生スル者ナリトシ、又意ニ任セ、或ハ高朗、或ハ低小、或ハ強ク或ハ和カニナスヘクシテ、音母ノ全キ呼言ニ於キテハ、迅速ト有意トノ、ニ、ヲ兼タル號報ニ依リテ、我カ内部ノ昇降盛衰ヲ他ノ體ニ示シ得ルナリ、若シ然ラサル時ハ我カ胸裏ヲ攪動スル意思ト感動トハ、大抵、他人ノ知レ可キ所ナラサルナリ

他ノ形質ヲ有スル官ノ種類ヲ論ス

右ニ分解レタル諸官ハ第一ニ、空間ヲ充ル物體ニ於キテ、其多寡、大小ト遠近トニ係ハル者トシ、故ニ此三ノ者ハ、形質觀ヨリモ、重ク度量觀ニ屬スル者ナリ、是ヲ以テ、今此數官ニ、形質觀ニ就キテ、認識ヲ呈スル一二官ヲ加フル時ハ、諸官ノ目錄完備ナルヲ得ヘシ、而シテ此官ハ又特ニ呼吸ト滋養トノ、兩官能ヲ具レテ、之ト連絡スレハ、少ナクモ、多少化學上ノカヲ具ヘ、諸物體ノ化力ヲ看破レ得ヘキ者タルヘシ、之ヲ加ヘテ、此認識ヲ呈スル者ハ、即、嗅クト味ハフトノ、二官ナリト

尚他ノ官
ヲ加フル
コト能フ
ハキヤフ
論ス

ス
前ニ舉ケタル諸官ニ加フルニ、尚他ノ官、物質ノ
性質ヲ啓示スヘキ者ヲ、以テスルコト、造物主ニ
在リテハ、蓋爲ヌ可ラサルニ非ス、然レモ吾人今
此ノ如キ官ニ就キテハ、一モ理會レ得ルコトナ
シ、抑、吾人、物體ノ形狀性質ニ於キテハ、知ラザル
所ナレトス可ラス、是尋常一樣ノ物體ニ於キテ、
猶且然リ、今吾人周匝ノ世界ニ於キテ、現在眞實
ニ存在スル者ニシテ、吾人、是ニ就キテ、絶エテ知
ラサル者、極メテ多シ、是皆我カ五官ノ一モ、是ニ

五官ノ司
ル所ニ就
テ生理學
ノ本務ヲ
論ス

達スルコト能ハサレハナリ、然レトモ唯吾人、今
日ノ生活ト幸福トヲ求メ、至極ノ安寧ヲ達スル
爲ニハ、現在ノ布置ニシテ足レルコト必セリ、而
シテ、今密ニ、其道理ヲ極ムレハ、五官ノ中、一モ、有
餘ナリトス可ラス、又一モ他ノ疆域ヲ、犯ス者ナ
クシテ、各自ニ、其特別ノ目的ニ供シ、互ニ相和レ
テ、抵牾スル者ナキナリ
五官ノ諸種ノ機關ニ就キテ、力學上ノ結構并ニ
人體ノ部分トシテ、貴重ノ用タルヲ説クハ、解剖
生理ニ學家ノ疆域タリ、生理學者ニ在リテハ、唯

五官ヨリ
呈スル知
識ノ種類
ヲ論ス

之ヲ以テ、心意ノ器用トシテ論スヘク、且其連絡
ト、本來ノ司務トヲ論スルヲ主トス、是便、此前ノ
分解ニテ説キタル所ナリ
且前論ニ附加シテ、論スヘキコトアリ、觸覺ノ官
ヲ除キ、又視ルノ官モ、殆ト除キ、其餘ノ官ハ、外部
ノ物ニ就キテ、絶エテ媒介ナキ直ナル知識ヲ呈
スルコトナキナリ是皆、一ノ下題ヲ呈シ、標識ヲ
示シ、報知ヲ通スル耳、ソノ助ヲ以テ、我ノ悟性、外
界ニ就キテ、其決斷ヲナスヲ得ルナリ、故ニ、是皆
此心ノ派定セル官ニシテ、受領ヲ司ル代理タリ、

是實ニ、官司ノ首務ニシテ、其諸門ヨリ、物品ヲ受
領シ、悟性之ヲ取テ、外界ノ諸物ハ、理會ヲ造ルコ
ト、恰モ神經ノ機性ヲ、組織シナセル、奇異ニシテ
且細纖ナル、線維ニ治ヒテ、電氣ノ信報ヲ、逐次ニ
報スルカ如シ、而シテ、魂ハ、内部ノ室中ニ、隱微ナ
ル坐ヲ占メ、線維ニ由リテ、己カ國內ヨリ、遼遠ナ
ル諸州ハ、通報ヲ受クル者ニテ、悟性ハ、其標識ヲ
譯スル者ナリ、此運用ノ情、狀真ニ此ノ如クナル
ヲ以テ、是皆直ナル運用ニ非ス、且本來ノ知覺ニ
ハ非ナルナリ、譬ハ、吾今、一ノ喧スキヲ聞カン

心學 卷二 文部省

ニ、此時吾カ現ニ知覺スル者ハ、凡テ音響ノ感覺ナリ、然ルニ、吾之ヲ外部ノ因ニ歸シテ、街上ノ車ナリトシ、且又其車ノ種類ヲ別テ、或ハ乘車ナリトシ、或ハ鐵軸ノ荷車トス、吾嘗テ此ノ如キ音響ハ、此ノ如クシテ生スルコト、即通過スル車、若クハ、此ノ如キ類ノ車ニテ、生スルコトヲ、唯經驗ニ因リテ知り、又實驗ニテ視タリ、是ヲ以テ、今聞ク音ハ嘗テ聞ク所ト、同レキヲ辨知スルナリ、故ニ、是皆引證ニシテ、唯理會タルノミ、凡テ諸官ハ、標識ヲ受ケテ、之ヲ送達シ、之ヲ悟性ニテ、以前歷レ

是、以テ、
音聲ヲ滅
ス可クヤ
ルヲ論

經驗ノ助ケニテ、更ニ翻譯スルナリ、是前ニ除キタルニ官ト雖モ、同一理ナリ、然ルニ、此五官ハ、此ノ如キ道理ニ因リテ、絶エテ特別ナル効用ナク、切要ナラスト、謂テ可ラス、是吾カ欲スル所ヲ、極メテ精密ニ、繼テ者ニシテ、外界ノ物ニ就キテ須要ナル報知ヲ得ハト要スル時ハ、要スル所ニ從ヒテ、正シキ下題ヲ致シ、我ヲシテ、之ヲ有ヒシムル者ナリ、蓋、五官ヲ身レヨハ、唯カリ空理家ニシテ、身未曾テ、一室ヲ出サル者ナリ、人孰レカ、唯其理性ト、正心トヲ有ストモ五

心理學 卷二 文部省

心理學 卷二 五

官ノ助無クレテ、此美麗潔淨ノ世界ニ往來スル
ヲ得ムヤ、又孰レカ、視聽嗅味覺ノ五官ニ於ケル、
其各自ノ功德ノ爲ニ、上帝ニ感荷セサルコトア
ラムヤ、然ルニ、五官ノ功德ノ、真且全ナルニ至リ
テハ吾人其用ヲ奪ハル、時ニ至ルニ非レハ、之
ヲ知ルコト能ハサルナリ、美爾頓詩アリ、曰ク、
四時如環、往復回、此日一去、不再來
春花之朝、秋月、夕、推移如流、吾已哉
吾儕之ヲ叫了スル時ニ至ラザレハ、之ヲ知ルコ
ト能ハサルナリ

第五章 各自ノ官具ヨリ得タル報
知ノ總計

五官交互ノ關係ト各種ノ官能ハ、既ニ之ヲ論シ
タリ、然ルニ、其他尚、官具ノ一種、視聽及觸覺ノ三
ヨリ、呈スル報知ニ就キ其正當ノ數目ト種類ト
ノ疑問アリ、蓋此官具ハ、他ノ官ノ化力ヲ主トス
ルト、異ニシテ、既ニ示レタルカ如ク、物體ノ空間
ニ存在スル性質ニ、係ハレハナリ
而シテ、先聽ク官ニ就キテハ、吾人聽クト云ハ、本
來如何ナル事ナリヤト云フ疑問アリ、今一ノ音

五官ノ用
ノ一種ニ
就キテノ
疑義ヲ論
ス

聽クノ官
ニ於テ、
呈スル所
如何ヲ論
ス

心理學 卷二 五

聽ハ元
來知覺+

ヲ聽ク時ハ、其音ヲ生スル物ヲ、聽クト云フナリ、
譬ヘハ、鐘ヲ聽ク、鳥ヲ聽ク、大砲ヲ聽クト云フ如
キ、是ナリ、然レトモ、嚴ニ定メテ言ヘハ、物體ニ聽
クニ非ス、唯音ヲ聽ク耳、聽キタルハ、鐘若クハ鳥
ニハ、非スシテ、鐘若クハ、鳥ノ、生シタル大氣ノ戰
動ナリ、是既ニ街上ヲ過ル車ニ就キテ、解説シタ
ル所ナルカ如ク、其音ヲ、之ヲ生スル因ニ、歸スル
コトヲ知ルハ他ノ官具ノ助ヲ取り、經驗ニ因リ
テ、然ルヲ得ルノミ
然ラハ則聽クハ、唯感覺ニシテ、知覺ニハ非サル

ラサルヲ
論ス

辨決ヲナ
スノ計ヲ
論ス

カ、今知覺ト云フ義ハ、外部ノ物體ヲ直ニ知ルコ
トヲ、徴スルコト、此語ノ本義タリ、然レハ、聽クハ、
知覺ニ非サルナリ、是吾人ヲシテ、曾テ直ニ知ラ
シムル者ニ非ス、此官ノミニテ、恒ニ聽ク所ノ者、
吾ヨリ外ナル物タルノ念ヲ、生スヘシヤ否ヤハ、
疑フヘキ所ナリ
然レモ、是日常有ルコトノ如ク、吾人、音ノ來ル所
ノ、外部ノ物體ニ就キテ、唯其存在ト、其物質トヲ
辨シ得ルノミニアラス、尚又、其距離ト方向トヲ
辨スルコトヲ得ルナリ、之ヲ爲スハ、極メテ容易

ニシテ、蓋萬ニ一ヲ失セス、今一ノ聲音ヲ、聽ク時
 ハ、刻下ニ其何タルヲ說キ何レノ方ヨリ來リ、何
 ノ質ノ音タルヲ辨スルコト極メテ多シ、而レテ
 之ヲ辨決スルコト、屢違フニ至ラサルナリ、蓋耳
 ニテ、音ノ方向ト、之ヲ生スル物體ノ如何ナルヲ、
 辨決スル能力ハ、注意ト慣習トニ因リテ、之ヲ培
 養シテ極メテ精密ナルニ至ルヘシ、拿破崙ハ、未
 曾テ砲聲ノ方角ト、距離トヲ、錯ルルコトナカリ
 シト言ヘリ、又我カ西北部ノ曠原ニ、住メル印度
 種ハ其耳ヲ地ニ附ケテ、目力ノ及ハサル距離ニ

音ノ數ヲ論ス

音ノ心ヲ動カスヲ論ス

テ、騎兵ノ一軍、近ソクヲ探偵シ、野牛ノ一群ノ近
 ソク時ヨリ、其步趨ヲ、辨識セリト云ヘリ
 耳ニテ、辨識シ得ヘキ音ノ數ハ、殆ト不測ナリ、平
 常ノ精シキ耳ニテ、辨識スヘキ音ハ、其別五百種
 アリト云ヘリ、此五百種ノ一種毎ニ、高低ノ差、五
 百等アリテ、總テハ、二萬五千個ノ別音アリト云
 フ
 心ヲ攪動シ、殊ニ感動ス、惟ス音ノ勢力ハ、別ニ說
 述ヲ要スルコト、世ニ能知ル所ナリ、樂器ノ律、人
 聲ノ調、鳥ノ啾啼、鐘ノ和鳴、談說ト歌謠トノ諸種

アハ、以テ高亮ナルヨリ、低重ナル調子ニ至リ、迅
疾壯烈ナルヨリ、緩徐平坦ノ運動ニ至ルマテ、凡
ヘテ此聲調ノ單純ニシテ、諸種アルコトハ、皆心
腸ヲ攪動スルコト極メテ甚シク、且同時ニ、情ヲ
感動シテ堪フ可クナルニ至ラシム、故ニ、音樂ノ
力ハ、教育ナキ心ヲモ、感セシムルニ至リ、又巧妙
ナル談說師ハ、其聽衆ノ情ヲ、感發興起セシムル
コト、亦淺薄ナラサルナリ、蓋會合ノ人衆ヲ、感憤
興起セシムル、獨、其陳述スル所ノ、道理ノミニ限
リ、又道理ノミニ、止マルニ非ス、之ヲ說クノ待ニ

視ルノ官
ハ、聽クノ
官ニ

在ルコト多シ、聲音ノ調ハ、自然ノ意旨ヲ含ム者
ニシテ、心腸ヨリ出ル自然ノ言語タレハ、固ヨリ
情ヲ、現ハス者ナル故ニ、他人ノ情ヲ、提醒スルニ
足ルナリ
今聽クノ官ヨリ、視ルノ官ニ、轉スル處ニテ、吾人、
目ニテ知覺スルハ、本來如何ナル者ナリヤト、云
フ疑問起レリ、今日又、多少遠サカリタル物體ニ、
著クル時、嚴ニ定メテ之ヲ言ハ、我カ視ル所ハ、
何物ノヤ、物ノ長廣厚ヲ見ルカ、其形狀ヲ見ルカ、
ハタ其色ヲ見ルカ、又視ル時、首トシテ、物體マテ

目ハ長廣
厚并ニ形
飛テ示ス
キヲ論ス

ノ距離ト、其位ヲ占メタル處トテ、見ルカ、是講究
ヲ要スル所ノ條款ナリ
長廣厚、并ニ形狀ハ、視ル上、ニテ、直ナル知覺ノ目
的タリヤ、否ヤト、云フ疑問ノ第一ニ就キテハ、是
皆視ルノ作爲ニ於キテ、我カ心ノ中ニ、伴ナヒ來
ルコト疑ナレ、吾人、一物ヲ見ル瞬間ニ、既ニ其廣
カリテ、云々ノ大小アリ、云々ノ形狀アルノ念ヲ
得ルナリト云ヘリ、此疑問ハ、吾人、此念ヲ得ルハ、
實ニ視ル官ニ由ルカ、或ハ、他ノ道ニ於キテスル
カ、而レテ、其報知、他ノ道ニ於キテスル時ハ、唯目

ノミ之ヲ呈スルカ又吾人、始メテ外部ノ物體ノ
上ニ眼ヲ注スル時ハ、長廣厚ト、形狀トノ觀念ヲ
受ルカ、ハク唯色ノミヲ、覺ユルカト云フコトナ
リ、今現在ノ事然ルカ如ク、吾人、日々ノ體驗ニ於
キテ、色ノ感覺ヨリ其面ノ廣ノ念ヲ、分析スルコ
ト能ハスト、云フ事實ハ、此疑問ハ、判然タル答ニ
非ス、學士丕羅昂カ示ス如ク吾儕、目前ノ櫛實ヲ
見、其大キヤト、其圓形トテ、色ヨリ分析スルコト
能ハスト、然レトモ、此說ニテ、圓形ト、大キヤトハ、
直ナル本來ノ知覺ノ、目的タルコトヲ、證セサル

睛珠ノ一部ノ攪動

ナリ、又同レ著迷家ノ説ニ、若萬有ノ面、悉圓形ナ
ル時ハ、吾人恐クハ、其圓形ヨリ、別ニ其色ヲ、理會
セムト欲スルハ、必難クシテ、猶今長ト廣トヨリ、
分析レテ色ヲ、理會セント欲スルト、同一難事タ
ルヘレ、然ルニ、今我カ色ノ感覺ハ、必圓形ト伴ハ
サルハ、現在然ルカ如シト雖モ、面ノ廣ト、色トノ
考ハ、必相伴ナフ者ナルヲヤト、是ヲ以テ、吾人ハ、
目ニテ、長廣厚ト其色ヲ具ヘタル物體ヲ知覺ス
ルコト、見エタリト墨守セリ
今、物ヲ見ル時ハ、睛珠ノ上ニ落ツル光ニ因リテ、

二本ノ攪動論

睛珠ノ一定ノ部分、長ト廣トニ於キテ、現ニ攪動
ヲ受クルナリ、此事實ニ依リテ、或人、吾人目ニテ、
外部ノ物體ノ長ト廣トヲ知覺スル事實ヲ、決定
スルニ足レリト思ヘリ、是亦必然ルニ非ス學士
丕羅昂ノ争ヘル如ク、嗅クノ官具ノ一部ハ、香ニ
攪動セラレ、聽神經ノ一部ハ、音ニ攪動セラレ、然
レ尺、吾人此機官ノ何レニテモ、長廣厚ノ知覺ア
ルヲ、意ニ識ルコトナキモ、亦同一理タリト、今吾
人曾テ長ヲ嗅キ、廣ヲ聽クコトナク、又是ニ依リ
テ、其物ノ大小ヲ知ルコトナシ、故ニ亦攪動ヲ受

以前ノ據
證ヲ總論
ス

ケタル晴珠ノ、特別ノ部分ハ本來ノ視ル感覺ト、
相合スルト思フ理ハアテサルナリ
然ルニ、此等ノ據證ハ、余未、其判然タルヲ見ス、是
唯長廣厚ト、形狀トハ、元來ノ知覺ヨリモ、速ニ得
ラルヘキコトハ、或ハ然ルヲ示スノミ、未、其以テ
然ル所ノ確證トトスニ、足ヲサルナリ
又一方ニハ確實ナリト見ユル一説アリ、是前ニ
舉ケタル、一ノ確的ヲ缺キタル據證ニ比レテ、誰
モ左袒スヘク見ユル者ナリ、色ハ光ノ性ニレテ、
光ハ空間ニ在ル物體ヨリ反射ニ依リテ、我ニ來

前説ト相
反スル據
證ヲ論ス

ル者ナリ、故ニ、之ヲ知覺スルハ、一ノ表面ニ、光ノ
布延シテ、之ヨリ反射スルヲ知覺スルナリ、然レ
ハ、長廣厚ハ、反射スル物體ハ、表面ノ廣ニレテ、光
ノ目ニ現ハル、ニハ、缺ク可テサルノ情狀ナリ、
而レテ、色ニ於キテモ、亦然ル者ハ、其物體ヨリ、反
射スレハナリ、故ニ吾人色ノ知覺ニ、缺ク可テサ
ル情狀ナリトスル者ハ、色ト共ニ知覺スルコト
ト見エテ、考ノ中ニキテモ色ヨリ、全、分テ考フルコ
ト、能ハスレテ結末ノ處實ニ目ニ知覺スルニ非
サルナリ、然レトモ此理ヲ以テ、吾人自己ニ、之ヲ

近世ノ發明ニ由ル
據證

分辨スルトモ亦難キ程ナリ
格物學ニ於キテ、近日ノ發明ニテ、此義ヲ表白ス
ルコト、見エタリ、以謂ヘラク、獨、廣ト長トハ、表
面ノ形ノミナラス、又厚ナル立方形モ、目ノ直ナ
ル知覺ノ目的タルヲ得ヘシト、是余、雙眼ノ視法
ニ於テ、惠多斯敦ノ講究ニ依ル者ニシテ、左右兩
眼ハ、視ル所ノ物體ニ就キテハ、其位置ニ左右ノ
差アリトス、此兩眼ノ上ニ映スル兩像ノ差ヨリ
シテ、吾人目ニテ、立方形ト、長廣トヲ、認ルコトヲ
得ルナリ、即物ノ厚ヲ示スハ、兩像ノ形ノ差異ヲ

ルニ由ルナリ、此ノ如キ例アルコトハ、雙眼鏡ト
號シテ兩眼ノ上ニ映シタル像ヲ各自ニ且一次
ニ、見ル如ク製シタル器械ニテ、證スヘシ、此器ノ
兩鏡ヲ、別々ニ見ル時ハ、唯平面ヲ見ルノミ、然ル
ニ、今左右眼ヲ合シテ同時ニ之ヲ視ル時ハ、既ニ
平面ノ像ヲ、現スルコトナク、兩像合シテ一ノ明
亮ナル形狀ヲナスナリ、是一ノ立方形ニシテ長
廣厚ノ三ヲ具ヘ、凡ヘテ真ノ物體ト同シク、現ハ
ル、ナリ
又形狀ニ就キテハ、今若長廣厚ハ、目ノ知覺ノ目

第二ノ疑
問〇視ル
ノ官ハ距
離ヲ示ス
ヤ否ヤ
論

的ナリト云ヘハ、形狀モ、是ト同レキコト、言テ待
タサルナリ蓋、形狀ハ唯諸方ニ涉リタル長ト廣
トノ、界限ナレハナリ
又吾人ノ視ルコトニ就キテ物體ノ距離并ニ其
物我カ外部ニ存スル觀念ヲ得ルト云フコトア
リ、是視ルノ官ノミニテ、吾カ視ル物ハ、吾自己ヨ
リ離レ、其間、數ニテ測リ得ヘク、而シテ其物體ハ、
此處若クハ其處ノ地ヲ占ムルノ、觀念ヲ得レヤ
否ヤ、今視ルノ作爲ニ於キテ、吾カ心ニ殘リタル
印象ニ因テ、辨決セハ、此ノ如ク見ユハキナリ、故

此說ヲ肯
ンセサル
見解ヲ論
ス

ニ、吾人ハ、一物體、此處若クハ彼處ニ在リト見、空
間ニ於キテ、多少距離アリテ、我カ外部ニ在リト
見ルコト、見ユ、是ヲ以テ吾人之ヲ自己ヨリ、區
別スルナリ
或人ハ、此說ヲ拒ミ争ヒテ、以謂ヘタク、我カ見ル
物ハ、凡ヘテ唯物體ヨリ來ル光ナリ、而シテ此光
ノ發スル差異ト其種々ノ變化トニ因リテ、我其
物體ノ距離ト、占位トヲ、實驗ニテ、辨決スルコト
ヲ知ルナリ、故ニ、是辨決レテ知ルニテ、知覺スル
ニ非ス、吾人唯視ル上ノ、形容ト距離トノ二事ハ、

前説ノ據

此説ノ其
他ノ據證

常ニ相伴フ者ト、見習レタルナリ
 此説ノ證トシテ、或人一ノ事實ヲ舉ケタリ、吾人
 物體ノ距離ヲ測カルニハ、之ヲ失スルコト屢ナ
 リ、今平常ヨリ、僅ニ中間ニ物ヲ隔ツル時、又大氣
 尋常ヨリ多少明亮ナル時、或ハ此等ノ類ニ因リ
 テ、平常ノ經驗ヨリ、多少ノ差アル時ハ、凡ヘテ物
 ノ距離ヲ誤ルナリ、故ニ、海中ニテ、船ノ距離、曠原
 沙漠等ノ、物ノ距離、川河ノ廣狹、塔閣等ノ高低ヲ、
 誤ルナリ
 又、尚一ノ事實ヲ舉ケテ、之ヲ爭ヘリ、視ルノ官ノ

印象ノミニニシテ、體驗ニテ正サ、ル時ハ、絶エテ
 距離ノ觀念ヲ致サスレテ、見ル物ハ、其目ト直ニ、
 接続スルカ如ク、他ノ官ノ助ニテ、然ラサルヲ知
 ルマテ、此ノ如ク見ユト云ヘリ、是晴珠不明ノ症
 フ患ヘ割法ニテ、療シタル諸人、殊ニハ、
 ノ記述セル患者、其見レ所ノ物毎ニ、知些爾顯 兩眼ニ支衝
 スルカ如ク、思ヒシト云フ、此等ノ經驗ニ由ルト
 云ヘリ、又加士波高沙久レク牢中ニ在リテ、免ル
 サレテ始テ出テ外界ヲ望ミタル時モ同レク、山
 河ノ風光ハ、窓ノ上ニ畫キタル一堆ノ圖ナリト、

此據證ノ
カヲ論ス

見エタリト云ヘリ
 然レトモ、此視ルコトニ於キテ外部ノ別ヲ知覺
 スルト、相共ニ立ツ可ラサルノ事ト爲ス可ラス、
 如何トナレハ、既ニ目ニ支衝スルカ如シト云ヒ、
 且此ノ如ク見ユト云ヘハ、猶外部アリト、定メク
 ルコト知ルヘシ、支衝ト云フ事ニハ、既ニ外部ト
 云フ意味アルヲヤ、且又上ニ援キタル例見ルコ
 トヲ習ラハス尋常ノ經驗ト、同レキコトナキハ、
 是尤疑フヘキノ事實ナリ、今小兒、其周圍ノ物體
 ヲ、注視スルコトヲ知ル時ハ、其意ヲ挈ク物體ハ、

己カ身ヨリ外部ニ存シテ、且遠サカルコトヲ、知
 ルコト、見エタリ、縱自己ト、相關スル距離ヲ正
 シク辨スルコト能ハスト雖モ、其運動ニテ察ス
 レハ、未嘗テ其物體ノ己カ目ト相接シ、己カ身體
 ノ部分ニ、支衝スルコト、思フトハ見エサルナ
 リ、又禽獸ノ子ノ如キ、既ニ生ル、時ハ直チニ目ニ
 テ、外部ヲ察シ、物ノ方向遠近ヲ知覺シ、是ニ準シ
 テ、其支體ヲ動カスコト、見エタリ、是此ノ如キ
 例ニテハ、經驗ノ事ニハ、非スレテ、直チナル知覺ナ
 リトス、此等ノ事實ニテ、通常ノ印象ハ、歸スル處、

正シキ印象ニ非スト云フハ、疑フヘキニ屬スルナリ、吾人物體ヲ見ルニ必、外部ニ存スルトシ、地ヲ占ムルトシ、又多少我ヨリ遠サカレリトスルハ、視ルノ作為ニ於キテ、現在モ、心ニ實驗シ、將來モ實驗シテ、此說ニ反シタル據證ハ、取ル可ラサルナリ

吾人物體ヨリノ真ノ距離ハ、習ヒテ始テ辨シ且之ニ就キテ、屢誤マルコトアリト云フハ、此見解ト、相戰フ者ニ非ス、ソレ距離ヲ測ルコトハ、多少共ニ、實驗ノ事タルハ、當然ニシテ、練熟ニテ得ヘ

距離ヲ辨
識スルニ
トヲ習フ
ハ此見解
ト共ニ立
ツ可ラサ
ルニ非サ
ルヲ論ス

キ事ナリトス、然レトモ、是ニ因リテ、吾人目ニテ、直ニ且始ニ、物體ノ外部ニ在ルコト、又縱初ニハ相距離幾許ナリヤヲ、知ラストモ、我ヨリ遠サカリテ距離アルコトヲ知覺スルハ無レト謂フ可ラス、外部ノ物體ヨリ、來ル光ノ線射ハ、我ヲシテ、物體ノ外部ニ在リテ、長廣厚ヲ有シテ、多少遠サカリタル空間ノ一地ヲ著ルク占ムルコトヲ、直ナル知覺ニ於キテ、示ス者ナリ、而レテ同時ニ、其距離ノ幾許ナリヤヲ定ムルハ、他ノ官具ト、經驗トニ托ストモ、亦何ノ不可カ有ラム、

觸覺ニ就
クハ疑問
ヲ論ス

爰ニ、視ルノ官ヨリ、觸覺ノ官ニ、移リタル處ニテ、
同シ疑問アリ、是此官ニテ、呈セル精密ナル報知
ニ就キテハ、哲學ノ諸家ノ中ニテ講論セル所ナ
リ、此觸覺ト云フ者直ニ、我ニ物ノ外部ニ在ルコ
ト、長廣厚、形狀、硬軟等、凡ヘテ、物體ノ諸種ノ力學
上ノ性質ヲ知覺セシムヤ、否ヤノ疑問ナリ、此知
覺ノ諸能力ヲ、此官ニ歸スルハ、通常皆然ルコト
ニテ來德、阿巴威、威蘭且余カ思フ所ニテハ、輓近
ノ諸家ハ、一般ニ、此說ヲ取レリ、但丕羅昂及哈美
爾頓ノミ、之ニ異ナリトス

報知ニ他
ノ源由ノ
有ルヘキ
ヤ否ヤヲ
論ス

余以謂ヘテ、此形質ノ中ニ就キテ、嚴ニ定メテ
言ハ、報知ノ源由タル者、觸覺ノ官ニ屬スルヨ
リモ、筋維ノ努力ニ就キテ、抵抗アルヲ、意ニ識ル
ニ非サルコト無キヲ得ムヤ、是少ニテモ、疑フヘ
キコトナリ、譬ヘハ、硬キ物ノ如キ、外部ノ物體ヲ
輕ク手ニ觸ルンハ、觸覺ノ官ヲ提起スト雖モ、硬
シト云フ觀念ハ、生セサルナリ、又其物ヲ徐々ニ、
掌中ニ置キ、其重ミヲ漸々ニ、増サシメ、堪ヘ難キ
ニ至ラシムヘシ、此時重即引カノ觀念ハ、得レト
モ、其物體ノ硬性ト又障性トノ觀念ハ、得サルナ
リ

リ、唯吾人外部ノ體ヲ動カシ、若クハ穿タムトシ
テ、筋維怒張シ其體ニ觸シテ、抵抗ヲ受ケタル時
ニノミ、其抵抗スル體ノ障性アルヲ知ルコトハ
有ルナリ

又物ノ外部ニ存スルコト、長廣厚、形狀ニ就キテ
モ、亦然ルコトアリ、一ノ外部ノ物アリ、譬へハ、骰
子、若クハ、象牙ノ彈ヲ掌中ニ安ク時ハ、感覺ヲ提
起スレトモ、此感覺直ニ、外部ノ物體タル知覺ヲ、
伴ナヒ來ルコト、必セリトスルカ、又唯、初頭觸接
ノ感覺ノミニテ、我カ感スル者ハ、自己ノ機官ノ

同ノ源由
ニ歸スヘ
キ他ノ知
覺ヲ論ス

部分ナラスレテ、外部ニ、物アルコトヲ示スカ、吾
人、攪動ヲ受ケタル部分ノ、感覺ニ於キテハ、自
其變化ヲ識ル、然レトモ、此變化ハ、外部ノ物ニ因
リテ、生レタルコトヲ直ニ識ルカ、然ルニ、今譬へ
ハ、骰子若クハ、彈ノ掌中ニ在リテ手ヲ握ル努力
ヲ、障フルカ如ク、又我カ運動步趨ニ、一障物ノ在
ルアリテ、支駐セラル、如ク、筋維ノ運動ニ抵抗
ヲ受ケテ、之ヲ自識リタル時ハ、此抵抗ニ因リテ、
抵抗スル物體ハ、長廣厚ト、并ニ其形狀模様トヲ、
知ルコトナキカ、蓋吾人我カ周匝ノ空間ニ在リ

我カ長廣
厚ノ第一
ノ觀念ハ
何レヨリ
来レリヤ
ヲ論ス

テ、此抵抗カノ起ルト、已ムトヲ知ルハ、極メテ著
ルキコトナリ、觸接ノ感覺ハ、實ニ之ヲ、認知スル
ニ於キテ、之カ助トナルコト、甚速ニレテ、抵抗力
無キ時スラ、先導タル覺性ナルコトハ固明ナリ、
唯疑フヘキハ觸接ノ感覺ノミニテ、初頭既ニ、此
ノ如キ認識ヲ、呈スヘキカト、云フコトナリ、
今前ニ講論シタルハ、唯外部ノ物體ノ形質ニ係
ハレリ、然ルニ、吾人ノ初頭ニ、長廣厚ノ念ヲ得ル
ハ、我カ自己覺性アル機官ヨリスルコト、疑ナレ、
蓋意識身體ノ諸部、互ニ離隔シテ、別ナル所ニ、感

或人之ヲ
拒ムヲ論
ス

覺ヲ知リ、是ニ依リテ、覺性アル廣キ諸部ハ、報知
ヲ取ルナリ、物ノ我カ外部タルト、長廣厚トノ觀
念ハ、右ノ如クニレテ、之ヲ得タル上、ハ、此形質ヲ
有スル、我カ自己諸體ノ知覺ヨリ推レテ、外部ノ
物體ノ同レ形質ヲ、知ルヘキコト、極メテ容易ナ
リ

第六章 感覺知覺ノ信スヘキ事

爰ニ從來ヨリ、五官ノ證據ヲ以テ、疑問トセシ諸
家アリ、即希臘ノ哲學諸家ノ中ニテハ、愛列亞
加、并ニ士歇布垓加ノ二派ナリ、又近時ノ精微ヲ

心理學 卷二 六八

盡シ智巧ヲ極メタル諸賢ノ中ニテモ同レ轍ヲ踏メル輩無キニ非ス、此說ニテハ覺性ニ見ハレタル現象并ニ萬物形質ノ云々タルハ之ヲ許シテ然リトスレトモ唯是ト相通スル客觀ノ真即其物ノ現實ノ體ヲ疑竇トナシタルナリ、以謂ヘラク、庶物皆我ニ云々ナリト見エ、我カ五官ノ上ニ爲ス所ノ印象モ亦云々ナリ、是吾カ否ムコト能ハサル所ナリ、然レトモ其物ノ真體我カ印象ト相通スルハ如何、是吾カ知ラサル所ニシテ實ニ真體アリヤ否ヤ、是疑フヘキナリ、如何シテ吾

請ヒ問フ所ノ證ヲ論ス

人、我五官ノ倚賴スヘキヲ知ルヤ、此五官ノ常ニ我ヲ欺カサルノ證ハ如何ト
 此疑問ニ答ヘテ、然ラハ則チ五官我ヲ欺クト云フハ如何ナル證カアル、如何ナル證ニ據レルヤト謂ハハ、恐ラクハ此疑問ニ答フルニ足レリトセム、今相反レテ、凡ヘテ之カ證ヲ舉ク可ラサル時ハ五官ノ知覺ハ、凡ヘテ基ナク、本ツク所ナク、知覺ニテ、陽ニ知リタル物體トハ、凡チ相應セサル物ニ因リテ、提起セラル、者ナリト、定ムルヨリモ、寧我カ知覺ハ、其實體ト相通レテ、同一ノ者ナ

リト、定ムルノ、勝サレルニ、若カサルナラスヤ、又
 今、爰ニ卓子、若クハ書籍等ノ實體、在ルニ非スレ
 テ、徒ニ此等ノ知覺スルコトアリト定ムルヨリ
 モ、寧我カ知覺ノ一ニ相應スル卓子、若クハ書籍
 ト云フ實體アリト定ムルノ勝レリトスルニ、若
 カムヤ、然ラハ則覺性ノ知覺ノ真ナルヲ、疑ヒ拒
 ム者ニ於キテハ、之ヲ拒マムトシテ、反リテ、其道
 理ヲ明カスナリ、況ヤ其説ハ、人間ノ通常ノ信ト、
 一般ノ説ト、相牴牾スルニ於キテヲヤ、況ヤ、此説
 凡テ其據證ニ戻トリ、其自己ノ混雜ニ因リテ、自

其證ス可
 ラサルコ
 論ス

己行事上ノ、實知ト信トヲ、覆カヘスニ於キテヲ
 ヤ、辨セスハアル可ラサルコト必セリ
 然ルニ之カ據證ヲナサムト欲ストモ、其證タル、
 何處ヨリカ、取ルヘキ、又何處ニ就キテ、之ヲ求ム
 ヘキ、今五官我ヲ欺クト云ス、而レテ、其據證ハ、覺
 性ヨリ、取ルニ非スレテ何ソ如何カ此覺性ノ我
 ヲ欺クヲ、證スヘキ、今若初頭ニ於キテ、覺性寄信
 ス可ラスト云ハ、何ヲ以テカ、第二次ニ至リテ、
 其寄信ス可ラサルヲ、證スル爲ニ、之ヲ寄信スヘ
 レトセムヤ、若五官常ニ我ヲ欺クト云ハ、其欺

クコトハ曾テ示ス可ラサルコト、明ナリ、況ヤ、五
 官ニ依リテ、證示スルコトヲ得可レト言ハ、五
 官ヲ廢レテ、一層倚賴スヘキ者ヲ、得ムト欲スト
 モ、亦有ル可ラサルノ事ニ屬ス、ソレ吾人、唯此嚮
 道ヲ有ス、別ニ一人ノ、之ニ代フルナレ、吾人、生涯
 ノ羈旅ノ間、觀察ノ爲ニ、唯此器ヲ有ス、而レテ別
 ニ、器械ノ依ルヘキナレ、吾人、之ヲ無用トレテ、海
 中ニ投棄セヨト云フコトハ得ヘレ、然レトモ、曾
 テ之ヲ轉移スルコト能ハサルナリ
 然ルニ又答ヘテ、以謂ヘラク、五官ノ證ハ、定無ク

覺性ノ證
 人不定ニ

レテ相反
 スルヲ論
 ス

レテ、自、相抵牾スルコトアリ、一人ハ、甘レトスル
 者ヲ他ノ一人ハ、之ヲ酸レ、若クハ苦レトシ、遠望
 レテハ、圓トキ塔ト見エシ者近ツク時ハ、方ナル
 者トナル、汝カ手裏ノ杖ハ、直ナレトモ、水中ニ投
 スレハ、鈎曲シテ見エト然ルニ、爰ニ即其實體ア
 リテ、不定ト抵牾トハ、此例ニ見エサルナリ、凡テ
 其時毎ニ、周圍ノ景況ノ變ハ、其見ル所ノ變ヲ、生
 スルヲ算計スヘレ、杖ノ例ニテハ譬ヘハ、水ニ淺
 深アルヲ以テ、此水ニ透入スル光線ハ、屈曲ヲ算
 計スヘク、光線ノ屈曲ハ、其杖ノ一半ハ、水中ニ沉

覺悟ノ欺
キヲ論ス

ハ所ニ就キテ、鉤曲ノ見ハル、ヲ算計スヘシ、是
 他ノ例ニテモ亦然ル者ニテ十里ノ距離ニテ圓
 ロク見ユル物、數尺ノ距離ニテ方ナリト見ユル
 ト、二人ノ味、一物ノ味、ニ於キテ、一致ナラストハ、
 相抵悟スルニハ非サルナリ
 其他、尚辨駁セル一説アリ、身體ノ機官ノ一定ノ
 景況ニ於キテ、外部ノ原因ナリト見ユル感覺、實
 ハ内部ノ變動ニテ、生シタル者アリ、此ノ如キ例
 ニテハ、内外共ニ同レ知覺ニシテ、加減見ルコト
 ニモ、聽クコトニモ、同レキコトアリ、是相通スル

基

外部ノ、實體アルカ如ク知覺シテ、其實ハ、此ノ如
 キ實體ナキナリ、是實體ハ、絶エテ無キコトヲ證
 スヘシ、今此ノ如キ、コト、時トレテ有ルコトナリ
 トセハ、他ノ事ニ於キテモ、無レト云フ可ラスレ
 テ、五官ノ呈スル所、悉ク、然リト云フトモ、不可ナ
 リト、謂フヲ得ムヤ
 余答ヘテ謂ハム、是援ク所ノ例ニ於キテ、其欺キ
 タルヲ探リ得、又證レ得ル所ノ、一事實ニシテ、此
 景況ノ時ノ知覺ト元來ノ知覺ト、差異アルヲ
 知ルヘシ、若五官ヲシテ常ニ倚賴ス可ラサラシ

真ナル證
ト直ナラサ
サル證
別ヲ論ス

ムル時ハ此ノ如キ特別ナル時ニ方リ、其差アル
ヲ、睇出スルニ、由、莫カルヘシ、今若通用貨幣ヲレ
テ、悉ク贋貨ナラレメハ孰カ贋ヲ睇出スルコト
ヲ、得ムヤ、且此例、錯アルヲ知ルハ、是臆想ニシテ、
一定ノ景況ニ於キテ、在ルコトナリトス、即病氣、
其他、身體非常ノ情狀ニシテ、例トス可ラサル者
ナルヲヤ、

此事ヲ論スルニハ、五官ノ直ナル證ト、直ナラサ
ル證ト、即元來、嚴ニ知覺ト斥ス者ト、唯理會、決斷、
引證タル者トノ間ニ、區別ヲ立ツヘシ、譬ヘハ、遠

方ノ塔ノ如キ、或ハ、其一部水ニ、没レタル杖ノ如
キ例ニテハ、吾實ニ、知覺スル所ハ、唯其一定ノ形
狀ナリ、而シテ、吾此形狀ニ由リテ、塔ノ圓キト杖
ノ曲レルトヲ、引證スルニテ、其引證ニ、錯有ルナ
リ、故ニ、爰ニテ、我カ決斷ヲ誤マルニテ、五官ノ知
覺、錯マルニ非ス、五官ハ、反リテ之ヲ現ハスコト、
真且正ニシテ、是其真ノ見ハレタルヲ、見セシメ
タレハ、是現ハス所ノ極ニシテ、必常ニ、此ノ如ク
現ハス者ナリ、此說學士來德ノ能辨セル所ニシ
テ、其前、舊ク亞立斯度德、埃比古羅斯、同ニ辨駁ニ

直ナル知
覺ハ如何
ナル事ヲ
呈スルカ
ヲ論ス

答ヘテ、來徳ト同レ旨趣ヲ、取レリ
直ナル、媒介ナキ、知覺ニ就キテハ、其例種々アリ、
其證、物體ノ存在ニ、尤確的ナリ、若物アリテ、我カ
欲スル所ノ運動ニ抵抗スレハ、吾カ意識、其抵抗
アルヲ知リ、外部ニ、抵抗スル物體アルヲ、知ルナ
リ、此時、吾此意識ノ事實ヲ、拒ムコト能ハサルナ
リ、然レトモ、此意識ノ肯定レタルコトヲ、疑ヒ若
クハ拒ムコトヲ、得サルニ非ス、然レトモ、既ニ意
識ヲ、疑ヒ否ムニ至リテハ、凡テ此事ノ論ハ、止ム
ニ至ルヘレ、若吾人、意識モ、既ニ寄信ス可ラスト

セハ、省リミテ寄信スヘキ者ナケレハナリ、人或
ハ、己カ意識ヲ拒ムハ、猶懸崖ヨリ、身ヲ投スルカ
如シ、唯一聲、萬事畢レリト叫了スル耳

第七章 記傳ノ略

第一 諸物體、形質ノ諸種ノ區別

物體ノ形質ニ二種ノ別ヲ立ツルハ切要ナル目
的ニ於キテ、異ナル者ニレテ、決レテ軌近ノ事ニ
ハ非ス、是希臘ノ古代ノ哲家ニモ、既ニ之ヲ認識
シテ、甘辛寒熱等ハ、我ニ係ルコトナク存在スル
物質ノ、本來ノ形質ニ非スレテ、寧我カ自己ノ覺

希臘諸家

性ノ攪動ナルヘキコトヲ論セリ、其後、普魯太格
 羅斯、并ニ士列尼ノ學派、及埃比古羅ノ學派ニテ
 モ、皆此見解ヲ取リキ、伯拉多、殊ニ亞立斯度德ハ、
 全ク此說ヲ取リ、亞立斯度德ハ、前ニ舉ケテ第二
 形質ト名ケタル者ヲ、攪動スル形質ト名ツケタ
 リ、蓋、是皆、五官ヲ攪動スル勢力ヲ有スレハナリ、
 而シテ、今尋常第一形質ト名ツクル、長廣厚、形狀
 運動數等ハ、覺性ノ本來ノ目的トシテ、之ヲ視ス
 レテ、前ノ一種ヲ、本來感覺ニ供スヘキ者トシ、後
 ナルハ通常ト呼ヘリ

力列阿
ノ考定

革力列阿、此區別ノ、真ノ基礎ヲ居エテ、之カ道理
 ヲ考定シ、而シテ、又上ニ舉ケタル物體ノ理會ニ、
 須要ナル形質、譬ヘハ形狀、大小、地位等ノ如キ種
 類ニ、第一形質ノ名ヲ附セリ、第二ノ形質ハ、上ト
 相反シ、色味等ハ、物體ニ固有スル者ニ非ス、唯我
 ニ係ハリテ、成ル者ナレハ、之ヲ知ルコト無キモ、
 物體ヲ理會レ得ヘキナリ、故ニ前ナル者ハ、物體
 ノ真ノ形質トシ、後ナル者ハ、唯理會ニシテ、我ヲ
 シテ、外部ノ物體ハ、真ヲ知ラシムルニ非ス、唯我
 カ自己ノ心ノ攪動ヲ、知ラシムル耳

新哲學
諸家

埜加爾多、及祿可、此區別ヲ取レリ、然レモ、其本體、變化ナク、其見ユル所ニ從ヘルノミ、來德、及士低瓦的モ、亦之ヲ取レリ、然レモ、二氏ハ、第一形質ノ内ニ、元來第二種タル疎鬆、平滑、堅硬、柔軟等ヲ、籠メタリ、士低瓦的ハ、實ニ爰ニ舉ケタル、四ツヲ入レテ第一形質ハ、是ニ限ルトセリ
此事ニ就キテ、極メテ力ヲ勞シタルハ、蓋、維廉哈美爾頓氏ニ、過クル者ナカルヘシ、吾儕、爰ニ舉ケタル記傳上ノ、事實ニ於キテハ、多分是ニ本ツケリ、而レテ、其論辨ハ、哲學上知覺ノ考定ニ於キテ、

哈美爾頓

哈美爾頓
ノ撰述
大區別

現ニ不測ノ寶藏タルトモ、尚後世マテ其價ヲ減セサルヘシ、其物質ノ形質ヲ彙類セル、其勞、其功、余之ヲ默スルニ忍ヒス、今爰ニ續キ之カ梗概ヲ舉ケテ其大端ヲ示サント欲ス、看者幸ニ之ヲ允ルセ
哈美爾頓ハ、物體ノ形質ヲ三種ニ分カテ、之ヲ第一種、第二中第一種、第二種ト名ツケタリ、第一種ハ、物質ヲ考フルニハ、少シニテモ、缺ク可ラサル者トレテ考ヘ、苟クモ物質ノ念生スル時ハ、既ニ先天ニ此念ヲ生スルナリ、而レテ、第二中第一種ト、

第一形質

第二種トハ、其形質タル偶然ニシテ、必期スル所ニ非サルヲ以テ、後天ニテ、經驗ニ依リテ、知ルヘレトス、其第一形質ヲ、演繹セルコト、左ノ如レ吾人、一ノ物體ニ就キテ、理會レ得ル所ハ、唯第一、空間ヲ塞クコト、第二、空間ニ、含マレタルコト是ナリ、空間ハ、意思ノ須要ナル形狀ニシテ、空間ニハ、必物アリテ塞カリ、即物ヲ含ノリト、考フルス、必トセサルナリ、然レトモ、物在リト念フ時ハ、念頭既ニ今舉ケタル所ノ、塞カリタルト、含マルトノ景況中ニ落チサルヲ、得サルナリ、

第一ニ空間ヲ塞クト云フ性質ハ單純ナル立方形ニシテ是ニハ①三様ノ廣、即長、廣、厚②障性即長廣厚ナキ者ト、作ス可ノサルノ性ナル此ニテ、形質ヲ有ス、而レテ、三様ノ廣ノ内ニハ①數、即分性②第二大小、此中ニ疎密ヲ含ム③第三形狀ヲ、含蓄スルナリ

第二ニ、空間ニ含マル、ト云フ屬性ハ①第一運動スヘキコト②第二位地ヲ占ムルコトノ、念ヲ呈スルナリ
然レハ、吾物質ヲ考フルニ、念頭ノ、須要缺ク可ク

ナル配合物ハ、第一ニ、長廣厚(此中第二ニ、分性、第三ニ、大小、第四ニ、疎密、第五ニ、形容ヲ含メリトス)第六ニ、壓搾ス可ラサルノ極、第七ニ、運動ニ供スヘキコト、第八、位置ナリ、是即第一形質ニシテ其種類ニ就キテハ、悟性ノ產物トシ、空間ヲ塞ク實體ノ念ヨリ、自然ニ生スルコト、已ム可ラサルニ出テ、其理太々嚴ニシテ、毫釐モ、犯ス可ラサル者ナリ

第二中ノ第一種ハ、第一種ハ、偶然變化ヲ受ケタル者トシ、凡テ空間ト空間トニ於キテノ運動ニ、

第二中第一種ノ形質

關涉スル者ナリ、是皆抵抗力ト壓力トノ表目内ニ、存スル者ナリトシ、是皆經驗ノ内ニ含ミ、其効トシテ、知ルヘキ者トシ、是皆客觀ト主觀トノ相旺相スル所ニ涉リ物質ノ形質トモナリ又我カ五官ノ攪動トモナル者ナリ

抵抗力ノ原因ニ就キテ、考フル時ハ、**第一**共引カノ因、其一**甲**ハ重力トナリ、**乙**ハ附著カトナル**第二**撥力ノ因、**第三**固保性ナリ、此三ノ者、又皆精密ニ、再區別スルヲ得ヘキ者トス、是ヲ以テ附著力ヨリ、堅硬、柔軟、固結、流動、韌ニシテ破レ難キ、脆ニ

第二種ノ形質

シテ碎ケ易キ、強剛屈ス可ラザル、柔軟曲カルベキ、疎糙凸凹多キ、平滑坦夷ナル等ハ、性ヲ生シ、撥カヨリ、抑壓シテ縮ムベキ、縮ム可ラサル、彈シキテ躍ルヘキ、躍ル可ラサル等ノ性ヲ生スルナリ

第二種ノ形質ハ、吾人ノ理會スル如ク、元來、全物體ノ屬性ニハ、非スシテ、唯我カ神經機官ノ攪動ナリ、是皆我カ神經ノ機官ヲ挑撥シテ、種々ノ名ヲ命スヘキ感覺ヲ、生セシムルノ勢力ヲ、具スル所ノミヲ取リテ、物體ノ形質ニ、屬シタリト見ルナリ、此種類ニ屬スル者ハ、色、聲、味、臭、觸覺、熱、電、等

尚此種類ノ區別ヲ論ス

ノ知覺ナリ、又癢笑噴嚏戰顫及諸種ノ感覺、外部ノ刺戟ニ因リテ起ル愉快、若クハ痛苦等モ、爰ニ屬ス

此ノ如ク、分テ來レル形質ノ中ニテ、第一種ハ、其形質ノミニシテ、直ニ知ルヘキ者トシ、第二種ハ、其我ヲ挑起スルニ因リテ、媒介ニ由リテノミニ知ルヘキ者トシ、第二中ノ第一種ハ、其物ノミニシテ、直ニ、又我ヲ挑起スルニ由リ、媒介ヲ挾サミテ、兩ナカラ兼テ知ルヘキ者ナリ、又第一種ハ、物體ノ物體ノミニ、係ハル形質ニテ、我カ機官ニ係ハル

モ、彼ニ於テ、變化ナレトシ、第二中ノ第一種ハ、我カ機官ニ係ハル物體ノ形質ニテ、凡テノ物體之ヲ有スルニ非ス、一種別ノ物體ニ涉ルコト、譬ハハ、撥衝スルコト、抵抗スルコト、附著スルコト、等ノ如シ、第二種ハ、我カ機官ニ關係シテ、我カ機官ヲ挑撥攪動セラレタリトシテ、視ル物ノ形質ナリ、故ニ第一種ハ、數學上ノ形質、第二中第一種ハ、力學、即器學上ノ形質、第二種ハ、性學上ノ形質ト名狀シテ、的然クルヘレ

上條ニ示ス所ハ、哈美爾頓ノ彙類ノ大本ノ概略

二分ノ區別ニ存ス

ル所ヲ論ス

ナリ、然ルニ、余亦大體ニ於キテハ、爰ニ示セル區別ニ從カヒタレトモ、猶古昔ノ第一第二ノ區別ヲ踏襲レタリ、是一層簡單ニシテ且極メテ精密ナレハナリ、而レテ唯此第二ヲ分カチテ、二種トシ、力學上(哈美爾頓ノ第二中第一)ト、性學上ノ形質ト名ツケタリ、是ヲ以テ、今唯古昔大家ノ區別ト、名目トテ、之カ爲ニ存レ、且殆ト一般ニ傳ヘタル所ニ、從フノミナラス、又維廉・哈美爾頓氏ノ彙類ノ、鄙粗ナル名號ヲ、避クルコトヲ得タリ、而レテ同時ニ、又所謂第二中第一ト、第二トノ形質ト

ノ切要ナル別ヲ、十分精密ニ示スコトヲ得タルナリ、

第二 知覺ニ就キテ、諸種ノ考定

爰ニ二ノ首タル考アリ、是全ク、相互ニ異ナル者ニテ、廣ク哲學ノ世界ニ布キテ、知覺ノ學ニ於キテ、互ニ黨與ヲ分カチタリ、其一ハ知覺ハ、吾人、外部ノ現實ナル萬有ニ就キテ、直ナル認識ヲ有スト云フコトヲ固守ス、是此書ニテ、取リタル見解ニテ、方今ハ此邦ノ性理家ニ於キテ、一般ニ之ヲ取リ歐羅巴ニ於キテモ、此說ヲ奉スル者多ク然

實體學ト
觀念學ヲ
論ス

觀念學家
ノ其他ノ

ルニ、從來久シク行ハレテ、實ハ、蘇格蘭ニテハ、來德、日耳曼ニテハ、韓國ノ時マテ、殆ト一般ニ奉レタリシ說ハ、此說ノ反對ニテ、即知覺ハ、他ノ凡テノ心意ノ作爲ノ如ク、心ハ、唯其自己ノ觀念ニ就キテ、意識ヲ有スル者ニテ、自己ト自己ノ情狀トノミテ、認識スルノミ、其實己ノ外部ナル物ヲ知ルニ由ナシト云ヘリ、此前ノ見解ヲ取ル者ヲ、實體學家後ノ見解ニ止マル者ヲ、觀念學家ト呼フナリ、然ルニ、此觀念學又分カナテ二種トス、其一純全

區分

ノ觀念學ニテ、吾人外部ノ物體ニ就キテ、有スル
 念ハ、純粹ナル主觀ニレテ、絶エテ外部ニ、相商量
 スル者アルコトナク、一モ、外ノ實物ト、相通スル
 コト無レト、云フコトヲ取レリ此純全ノ觀念學
 ヨリ、別ニレテ、多分ハ、吾人、直ニテモ、若クハ、直ニテ
 ラサルモ、我カ自己ノ心ノ外ニ、一物ヲモ、知ルコ
 トナレ、然レトモ我カ心ノ觀念ト、對スル實體ア
 リテ此實體ヲ、觀念ノ代現スルナリト、故ニ、此學
 派ノ輩ヲ、レモテ代現ノ觀念家ト號シ、又維廉・哈美爾頓
 氏ノ之ヲ名ツクル如ク、コスモテ萬有代現ノ觀念學ト號

其花ノ區
別ヲ論ス

種類ノ總
計

ス
 此後ノ觀念學家ノ中ニテ、或ハ吾人外界ニ就キ
 テ、有スル所ノ觀念ハ、唯此心自己ノ變化ノ情狀
 ナリトスル者アリ、又或ハ、此觀念ハ、心ト物質ト
 ノ中間ヲ、直ニ結合スル連鎖ノ一種トシテ視ル
 者アリ、此前ナルヲ、ゴイスタク主我者流トシ、後ナルヲシモイヌ非主
 我者流トス
 是ヲ以テ、此考ニ、三大種ノ別アリ自然ノ實體學
 家、純全ノ觀念學家、代現ノ觀念學家ナリ、而レテ
 代現ノ觀念學、又別ナクニトナス、即チ主我者流、非

諸種ノ巨
學タル著
述家

主我者流ナリ
 純全ノ觀念學ノ巨擘中ニハ有名ノ大家アリ、英
 吉利ニテハ、巴吉利及虎謨、日耳曼ニテハ、非布埜
 及俾歌爾、此數ノ中トス、又代現ノ觀念學ノ中ニ
 ハ、埜加爾多、亞諾爾的、馬拉伯、蘭西、萊武尼多、祿可
 等ニテ、大凡埜加爾多ノ時ヨリ降リテ、來德ノ時
 ニ至ルマテ、哲學諸家ノ大半、皆是ニ屬セリ、其後
 ニ方リテハ、學士丕羅昂ヲ推シテ有名ノ著者ト
 ス、丕氏ハ、其哲學ニ於キテ、知覺ノ說ノ基礎トシ
 テ、代現ノ觀念學ノ考ヲ取り、主我者流ニ類似セ

代現觀念
學ノ源由

リ自然實體學家ノ中ニテハ、來德ノ時以降、維廉
 哈美爾頓氏ヲ以テ、翹楚トス、
 代現知覺ノ考ハ、蓋淵源スル所アリ、ソレ、人心ト
 云フ、純一ナル、精靈ノ存在スル者、外界ノ純粹ナ
 ル物質ニ就キテ、如何シテ、之ヲ認識スルコトヲ
 得、如何シテ、之カ爲ニ、攪動セラル、コトヲ得ル
 是如何カ、之ヲナシ得ルノ道カアル、之ヲ理會ス
 ルノ難キヨリ、起レルナリ、ソレ靈魂ハ、腦ト云フ
 其客廳中ニ坐ヲ占ムル者ナリ、然ラハ則外ニシ
 テ、及ハサル地ニ在ル物ヲ、認ムルコト能ハサル

ナリ、如何トナレハ、物ハ凡テ其居ル所ノ外ニ發
 作スルコト能ハサレハナリ、是ヲ以テ諸哲家以
 謂ヘラク、心、其自己ニ直ニ接スルノ地ノ外ニレ
 テ、及フコト能ハサルノ地ニ在ル物ヲ知覺スル
 ニ於キテハ、外界ヨリ心マテ來ル所ハ一定ノ微
 細ナル象像アルヘシ、此象像、外部ノ物體ニ較肖
 タル者ニシテ、外界ヨリ靈魂ニ代現スルナリト、
 此肖像ハ、物質ヨリ、純淨ニシテ心ニ比スレハ、精
 靈ナラストス、即ち兩ノ者ハ、中間ニ在ル性質ニレ
 テ、之ヲ觀念ト名ツケタリ

代現ノ說
 純全ノ觀
 念學ニ趨
 クヲ論ス

今此ノ如キ考定アル時ハ、是直ニ、純全ノ觀念學
 ニ趨クコト、殆ト避ク可ラサルナリ、今吾人知覺
 ニ於キテ、直ニ外部ノ物體ニ就キテ、知識ヲ取ラ
 スレテ、唯我カ自己心上ノ象像、即ち觀念ヲ認メ得
 ルトセハ、則チ如何シテ此象像ハ、正レク外部ノ實
 體ヲ代現シ得ルコトヲ知ルヘキ、外部ノ實體ハ、
 吾人ノ嘗ヨリ、知ラサル所タレハ、以往モ之ヲ知
 ルヘキ由ナレトス、然ラハ、實ニ如何シテ、此ノ如
 キ外部ノ實體アリト、云フコトヲ知ルヘキ、言ハ
 ハ、我カ自己ノ心ノ及ハサル所、心ノ外ニ、物有リ

トスルハ、如何ナル證カアルト、是必然論究シ爰
ニ至ルノ理ニレテ、巴古利、虎謨、當時歐羅巴ニテ、
威ニ行ハレタル哲學ヲ、驅逐シテ、追ル可ラサラ
レ、純然タル極ニ、至ラシメタリ、

此論ニ、
學士來德
ノ關係ヲ
論ス

此哲學ノ狂瀾ヲ、既倒ニ挽回スルノ功ハ、學士來
德ニ屬シ、來氏此觀念ノ考定ハ、極メテ安ナルヲ
辨セリ來氏以謂ヘラク、心裏ニ、此ノ如キ代現ノ
象像ノ、存スルハ、全ク證徴ナキ耳ナラス且一層
理會ス可ラサルコトニ屬スト、今縱ニ形狀容貌ニ
於キテハ、其象像ヲ理會レ得トモ、音ノ象像味ト

臭トノ象像ヲ、理會スルコト、能ハサルナリ、故ニ
此ノ如キ臆説ハ、本ツク所ナレト、謂フヘシ、且縱
其ヲレテ、理會ス可ラシメテ、十分ナル證據ニ本
ツクトモ、猶此心、外部ノ物體ヲ、知覺スル所ノ狀
ニ就キテハ、一モ解釋スルコトナク、又其解釋ノ
難キニ於キテ、一モ之ヲ減スルコトナシ、若又代
現スル象像ヲレテ、物質ナラレメハ、心如何シテ、
物質ヲ認メ得ヘキ、若物質ナラサラレメハ、如何
カ是物質ヲ代現スルヲ得ヘキ、又心如何シテ、其
正レク外部ノ物體ヲ、代現スルコトヲ、知ルヘキ

米德以來ノ事狀

學士來德ノ時以來、此、非我主者流ニ、類スル代現知覺ノ考ハ、大半皆之ヲ拋棄セリ、而レテ、哲家大率、意識ニ因リテ、示シタル地ニ據リテ、人間通常^{コト}理會ノ說ヲ以テ、足レリトシ、知覺ニ於キテハ、外部ノ物體ヲ直^テ認識スト、云フコトヲ取レリ、
學士來德ノ創業ス、十成セルハ、維廉・哈美爾頓氏ニシテ代現ノ考ニテハ、其稍精微ニ涉レル我主者流ノ說即、丕羅昂并ニ他ノ諸家人、取レル所ニテモ、均シク保ツ可カラスレテ、完全ナリト謂フ可ラス又其外部ノ物體ヲ、代現スル象像、即、觀念

哈美爾頓ノ地位

ハ此心ヨリ別ナル物トレテ視ルトモ、又ハ此ノ如キ觀念ヲ外部ノ實體ノ代リニ、知覺ノ直^テナル目的トレテ、之ヲ唯此心ノ變化セル狀ナリト視ルトモ、兩ナカラ其差アルコトナキヲ示セリ、故ニ兩ノ者何レモ、其効、觀念ノ虛妄ニ、陷ラサル無ク、到底哲家ノ疑惑者流タルヲ、免レサルナリ、凡^ステ此ノ如キ見解ト、相反レテ、哈氏ハカヲ盡レテ、切ニ自然實體學ノ學派ヲ固守シ、知覺ハ、吾人外部ノ物體ヲ、媒介ヲ取ラス直^テニ、認識スルナリト云ヘリ、

知覺ニ就
キテ哈氏
ノ考定ノ
大綱領

本來ノ知
覺ハ何ヲ
カ示ス

知覺ハ凡テ直ナル認識ナリ、吾人唯目前爰ニ存
在スル者ヲ知覺スルノミ、故ニ、我カ知覺スル者
ハ、長廣厚アル物質トレテ見タル、我カ自己ノ機
官ナリ、然ラサレハ、我カ機官ト相并ヒテ、直ニ我
ニ關スル者ナリ、蓋機官ハ、知覺ニ於キテハ、我ニ
非サル者トレテ、之ヲ見、感覺ニ於キテハ、我ナル
者トレテ、之ヲ見ルナリ。
吾人本來ノ知覺ニ於キテ理會スル者ハ、**第一**物
體ノ形質、我カ自己ノ機官ニ屬シテ、現ハル、者
ナリ、**第二**物體ノ第二中第一形質、機官ト共ニ、並

外部ノ物
體ノ第一
形質ハ如
何レヲ知
ルカ

外部ノ存
在ハ如何

ヒテ現ハル、者ナリ、(哈氏ノ物體ノ形質ノ區別
ニ就キテハ、前ニ見ルヘシ)
我カ機官ノ外ナル物ノ、第一形質ハ、吾人、直ニ之
ヲ知覺スルニ、非スレテ唯物ヨリ、我ニ來ラシメ
タル効驗ニ因リテ、之ヲ引證スルナリ、故ニ知覺
ニ於キテモ、感覺ニ於キテモ、我カ攪動感動ノ、外
部ノ因ヲ、直ニ自然ニシテ、了解スルコト能ハス、
是ヲ以テ、意識ニテハ、知ル可ラスレテ唯引證ト、
附會トニ因リテ知ルノミ、
外界ニ物ノ存在スルハ、外部ノ物ノ第一形質ノ

レヲカ之
ヲ知ル

知覺ニ於キテハ知ル可ラスレテ、唯第二中第一ノ形質ニテ、知ルヘントス、即我カ運動、我カ機官ノ外ナル物體ヨリ、抵抗ヲ受ケタル時意識之ヲ知ルナリ、此中ニハ、外部ニ抵抗スル物體アルノ意識アリ蓋ニ物ヲ附會レテ、之ヲ知ルナリニ物ハ、經驗ニ因リテ、知ルヘキ空間ト空間ニ於キテノ運動トヲ指ス、此ニハ、意思ノ生レナカラニレテ、之ヲ有スル本國産ハ、元タリ、而レテ如何レテ是ニ依リテ、爲レ得ルカラ、講究スルハ、無益ニ屬スヘシ、凡テ他ノ感覺ヨリ、一ノ感覺ノ發シ、

此ニ物ト
ハ何ヲ指
スヤ

此考ハト
來徳ノ考
ハトノ異
ナル條款

又他ノ感覺トハ、別ニ一ノ感覺ヲ發スルモ、知覺アル毎ニ必、先、空間ノ觀念ヲ、理會スヘキニ屬シ、而レテ、外部タルヲ知ルハ、此中ニ含メリトス、上ニ舉ケタル軌範ハ、學士來徳ノ首唱シテ、英吉利、蘇格蘭ノ諸哲家爾來一般ニ、取レル知覺ノ説ト、或所ニ就キテハ、其實異ナル者アリ、哈氏ノ説ニテハ、知覺ハ、來徳、并ニ他ノ諸家ノ取レル如ク、感覺ニテ、告ケタル物體ノ理會ニハ、非ス、唯其物ヲ、直ニ、認識スルコトナリ吾人、唯物體ニ就キテ、之ヲ存在セリト、理會スルノミナラス、又存在ス

ヘント信レ、其存在ヲ知リ、其存在ヲ知覺スルナ
 リ、一般ノ説ノ如ク、感覺先タチテ知覺之ニ次ク
 ニ非ス、二ノ者時間ニ於キテ、同時ニ共立スル者
 ナリ、又物體ノ第二形質ヲ直ニ知覺セス、是唯感
 覺ヨリハ引證ニ因リテ、知ルヘキ者ナリ、且又尋
 常思フ如ク、遠距離ノ物體ヲ媒介ニ因リテ、知覺
 スルニ非スレテ、我カ知覺スル所ノ者ハ、機官ノ
 攪動ヲ受ケテ、云々タル者トシ、若クハ直ニ、機官
 ニ抵觸レテ、之ヲ攪動シ、之ニ抵抗スル者トス、又
 長廣厚ト、物ノ外部ニ在ルコトハ、來德并ニ其

後ノ英吉利亞墨利加ノ著述家ノ取レル如ク、初
 頭ニハ觸覺ヨリ、知ル者ニ非スレテ、之ヲ知ルニ、
 他ノ道アリ、蓋長廣厚ハ、我カ自己ノ機官ニ就キ
 テ、第一ノ形質ノ知覺ニ由リ、一ノ感覺ノ地、他ノ
 感覺ノ地ト、別ナルヨリレテ、知ルヘレトシ、物ノ
 外部タルハ、我カ自己ノ運動力ニテ、受ケ驗ヘル
 所ノ抵抗ニテ知ルヘキナリ、終ニ又、本來ノ感覺
 ハ來氏及諸家ノ説ノ如ク、心ノ純粹ナル攪動ニ
 非スレテ、心ト物體ト相合レタル攪動トス、之ヲ
 哈氏ト來氏トハ、異ナル所トス、然レトモ全體ノ

心理學卷之二終

旨趣ハ、互ニ異ナルコトナレ、

